デコードモニター

ユーザーマニュアル

法的情報

本書について

- 本書には、本製品の使用および管理に関する説明が記載されています。以下に記載されている写真、図表、画像、およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアのアップデートやその他の理由により、予告なく変更される場合があります。本ドキュメントの最新バージョンは、Hikvisionのウェブサイト（https://www.hikvision.com）でご確認ください。別段の合意がない限り、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその関連会社（以下「Hikvision」といいます）は、明示的または黙示的な保証を行いません。
- 本ドキュメントのご利用にあたっては、本製品のサポートに関する訓練を受けた専門家の指導および支援を受けてください。

本製品について

本製品のアフターサービスサポートは、購入された国または地域でのみご利用いただけます。

知的財産権の承認

- Hikvision は、本ドキュメントに記載された技術に関連する著作権および/または特許を所有しています。本文書に記載された製品に具現化された技術に関する著作権および／または特許を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書の一部（テキスト、画像、グラフィックなどを含む）は、Hikvision に帰属します。書面による許可なく、本文書のいかなる部分も、その全部または一部を、いかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- HIKVISION およびその他の Hikvision の商標およびロゴは、さまざまな法域において Hikvision の所有物です。
- その他、記載されている商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。
- HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE 「HDMI」、「HDMI High-Definition Multimedia インターフェース」、「HDMI Trade dress」、および「HDMI」ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で許容される最大限の範囲において、本書および記載された製品、およびそのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアは、「現状有姿」かつ「すべての欠陥およびエラーを含むまま」で提供されます。HIKVISION は、明示的または黙示を問わず、商品性、満足のいく品質、または特定の目的への適合性を含みますが、これらに限定されません。本製品の使用は、お客様ご自身の責任において行ってください。

いかなる場合においても、HIKVISIONは、特別損害、結果的損害、付随的損害、または間接損害（事業利益の損失、事業の中断、データの損失、 システムの破損、または文書の紛失による損害を含みますが、これらに限定されません。これらは、契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、またはその他の理由に基づくものであるかを問わず、本
本製品の使用に関連して生じた損害（事業利益の損失、事業の中断、データの損失、システムの破損、文書の損失などを含むがこれらに限定されない）について、たとえHIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について通知を受けていた場合であっても、一切の責任を負いません。

- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシーの漏洩、その他の損害について、一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じて、HIKVISIONは適時に技術サポートを提供します。

- お客様は、本製品をすべての適用法令に従って使用することに同意するものとします。また、お客様の使用が適用法令に準拠していることを確保する責任は、お客様のみが負うものとします。
  特に、お客様は、第三者の権利（宣伝権、知的財産権、またはデータ保護およびその他のプライバシー権を含むが、これらに限定されない）を侵害しない方法で本製品を使用する責任を負います。
  パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー
  権利を含みますが、これらに限定されません。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、、あるいは人権侵害を助長する活動など、いかなる禁止された最終用途にも本製品を使用してはなりません。

- 本文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合は、後者が優先されます。

© Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. All rights reserved.

適用モデル

本マニュアルは、デコーディングモニターに適用されます。

記号の規定

本書で使用される記号の定義は以下の通りです。

記号	説明
Note	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。
Caution	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期せぬ結果につながる可能性のある、潜在的に危険な状況を示します。
Danger	回避しなければ、死亡または重傷につながる可能性のある、リスクの高い危険を示しています。そのレベルの危険は、回避しないと死亡または重傷につながる可能性があります。

安全上の注意

- 注意：本装置は、屋内環境において電波干渉を引き起こす可能性があります。必要な予防措置を講じる必要があります。
- 本製品を使用する際は、国および地域の電気安全規制を厳守してください。
- 入力電圧は、IEC60950-1 規格に準拠し、SELV（安全極低電圧）および 100～240 VAC または 12 VDC/2A の限定電源の両方を満たす必要があります。
- 本機器が 3 極電源プラグを使用する場合は、接地された電源コンセントに正しく接続する必要があります。
- 電源プラグとコンセントのみによって電源のオン/オフを行う機器の場合、コンセントは機器の近くに設置され、容易にアクセスできるものでなければなりません。
- 電源プラグを抜き、コンセントから電源を切った後も、電気が残っている可能性があるため、むき出しの部品（インレットの金属接点など）には触れないでください。また、少なくとも 5 分間は待ってください。
- 危険な通電状態を示す「ϟ」のマークが付いている機器の場合、端子に接続される外部配線は、訓練を受けた担当者が設置する必要があります。
- 本機器を不安定な場所に設置しないでください。本機器が落下し、重傷や死亡事故につながるおそれがあります。
- 本装置がウォールマウントまたは天井取り付けに対応している場合、取り付け面は、本装置の重量の 3 倍、ただし 50 N以上）の追加荷重に耐えられるものでなければなりません。設置中は、本機器および関連する取り付け具がしっかりと固定された状態を保つ必要があります。
- 本機器にコイン型/ボタン型電池が内蔵されている場合：

1. 電池を飲み込まないでください。化学火傷の危険があります！
2. 本製品にはコイン型／ボタン型電池が含まれています。コイン型／ボタン型電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の内部火傷を引き起こし、死に至る可能性があります。
3. 新品および使用済みの電池は、子供の手の届かない場所に保管してください。
4. 電池ケースがしっかりと閉まらない場合は、本製品の使用を中止し、子供の手の届かない場所に保管してください。
5. 電池を飲み込んだ、あるいは体内のどこかに挿入してしまった可能性があると思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
6. 注意：不適切な種類のバッテリーに交換すると、爆発の危険があります。
7. 不適切な種類のバッテリーに交換すると、安全装置が機能しなくなる恐れがあります（例えば、一部のリチウム電池の場合など）。
8. バッテリーを火や高温のオーブンに投げ込んだり、機械的に押しつぶしたり、切断したりしないでください。爆発の原因となる恐れがあります。
9. バッテリーを極端に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出の原因となる恐れがあります。
10. バッテリーを極端に低い気圧にさらさないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出の原因となる恐れがあります。
11. 使用済みのバッテリーは、指示に従って廃棄してください。

- 必ず、デバイスセットのメーカーが推奨するキャビネット、スタンド、または取り付け方法を使用してください。
- 必ず、機器セットを安全に支えることができる家具を使用してください。
- 必ず、機器セットが支持家具の端からはみ出していないことを確認してください。
- デバイスに接続されているコードやケーブルは、つまずいたり、引っ張られたり、つかまれたりしないよう、必ず適切に配線してください。
- デバイスセットを不安定な場所に置かないでください。
- 家具と機器セットの両方を適切な支持物に固定せずに、背の高い家具（食器棚や本棚など）の上に機器セットを置かないでください。
- デバイスセットとそれを支える家具の間に、布やその他の材質が挟まるような場所に、デバイスセットを絶対に置かないでください。
- おもちゃやリモコンなど、子供が登りたくなるような物を、デバイスやデバイスが置かれている家具の上に絶対に置かないでください。
- 音声再生機能付きのデバイスについては、聴覚障害を防ぐため、大音量のレベルで長時間聴かないでください。

⚠ Caution

- 保護レベルが IPx4 未満の場合、本機器は水滴や水しぶきにさらさないでください。また、花瓶など、液体が入った物を本機器の上に置かないでください。

- 山頂、鉄塔、森林などの特殊な環境では、デバイスの入力端子にサージサプレッサを設置してください。
- 電源コードに接続された端子から本機器に電力を供給する場合は、主電源への接続において、端子の電圧および配線が正しいことを確認してください。
- 通気口のある機器の場合、新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどの物品で通気口を覆って、通気口を塞がないようにしてください。また、ベッド、ソファ、ラグ、その他の同様の表面に機器を置いて、通気口を塞がないようにしてください。
- 本機器に通気口があり、放熱のために距離の要件が定められている場合は、十分な通気が確保できるよう、本機器の周囲に適切な距離を確保してください。
- 本機器の設置が必要な場合は、

  1. 取扱説明書の指示に従って本機器を設置してください。
  2. 怪我を防ぐため、本機器は設置手順に従って設置面にしっかりと固定してください。
- 本機器を移動または使用する際は、垂直な状態を保ってください。
- 注意：ブラケットが当社の特定の機種専用に設計されている場合は、対応する機器でのみ使用してください。他の機器で使用すると、不安定になり、怪我の原因となる可能性があります。
- 注意：本機器を当社の特定のブラケットに取り付ける必要がある場合は、対応するブラケットのみを使用してください。他のもの（カート、スタンド、キャリアなど）を使用すると、不安定になり、怪我の原因となる可能性があります。ブラケットモデルの詳細については、本機器のデータシートを参照してください。
- インターフェースはモデルによって異なります。詳細については、製品のデータシートをご参照ください。
- 本機器に電源アダプタが付属しておらず、機器の裸線配線が必要な場合：
- 危険な通電端子に接続される本装置の外部配線は、訓練を受けた担当者が設置する必要があります。
- デバイスの配線、設置、または分解を行う前に、必ず電源が切断されていることを確認してください。
- 電源装置または本機は、接地された電源コンセントに接続する必要があります。
- 電源には高電圧が流れています。分解しないでください。
- 電源装置または機器から煙、異臭、異音がした場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。
- 本機器を自分で配線する必要がある場合は、電源用のケーブルを選択してください。
  。標準的なワイヤーストリッパーを使用して、指定された位置で被覆を剥がしてください。重大な事故を防ぐため、被覆を剥がす長さは適切にし、導体を露出させないでください。
- 本製品のパッケージに電源アダプタが同梱されている場合は、同梱のアダプタのみを使用してください。電源アダプタが同梱されていない場合は、使用する電源アダプタまたはその他の電源が「限定電源」の要件を満たしていることを確認してください。電源の出力パラメータについては、製品のラベルを参照してください。

目次

第1章 はじめに 1
1.1 製品紹介 1
1.2 フロントパネル 1
1.3 背面パネル 2
第2章 設置とケーブル接続 3
2.1 ベースの取り付け 3
2.2 ヘリンボーンベースの取り付け 5
2.3 電源コードと信号ケーブルを接続する 7
第3章 OSDの操作 8
3.1 信号ソースの選択 8
3.2 OSDの操作 8
3.3 OSD機能 9
第4章 ローカルデバイスの操作 12
4.1 ローカル起動およびIPアドレスの設定 12
4.2 カメラの追加 13
4.2.1 オンライン追加 13
4.2.2 手動で追加 13
4.3 カメラの操作 15
4.4 グループの管理 15
4.5 シーンの管理 16
4.6 カメラ／シーンの再生 17
4.7 録画の再生 18
4.8 システム設定 21
第5章 Web設定 23
5.1 デバイスの起動とログイン 23
5.2 ネットワークアドレスの設定 26
5.3 信号源の設定 27
5.3.1 ネットワーク信号ソースの追加 27
5.3.2 ネットワーク信号ソースの編集 29
5.3.3 ネットワーク信号ソースの一括削除 30
5.3.4 ネットワーク信号ソースをビデオウォールに紐付ける 30
5.4 ビデオウォールの操作 30
5.4.1 信号ソースウィンドウのパラメータを編集する 31
5.4.2 シーンの管理 34
5.4.3 プランの管理 35
5.4.4 画面のメンテナンス 36
5.5 画面上の画像効果の設定 37

5.5.1 画面のオン／オフのスケジュール設定 37
5.5.2 その他のパラメータの設定 38
5.6 デバイスのメンテナンス 40
5.6.1 デバイスのステータスを表示 40
5.6.2 システムパラメータの設定 40
5.6.3 HTTP(S) パラメータの設定 43
5.6.4 イベントの設定 44
5.6.5 システムの保守 45
5.6.6 デバイスのセキュリティ管理 48

第1章 はじめに

1.1 製品紹介

Decoding Monitorは、一体型ネットワークデコードエンジンを搭載しており、ネットワークカメラやネットワークビデオレコーダー（NVR）からの信号をデコードして表示できるほか、
マルチスクリーン分割によるリアルタイム表示や、ビデオ録画映像の再生検索にも対応しています。オールインワン設計により、システムアーキテクチャが簡素化され、安定性と運用効率が向上します。消防
管理センターや商業小売環境などのシナリオに適しています。

1.2 フロントパネル

本体のフロントパネルにあるボタンと電源インジケータは、以下の通りです。

Figure 1-1 フロントパネルのボタンと電源インジケータ

Table 1-1 ボタンおよび電源インジケータの説明

ボタン／電源インジケータ	説明
	● OSD ページ：次のページ、またはサブメニューページのパラメータに切り替えます。 ● その他のページ：画面上にすべての信号ソースを表示します。
	● メインメニューページ：前へ／次へ。 ● サブメニューページ：値を増加または減少させます。 ● USB ファイルページ：ファイルを選択します。 ● USB オーディオおよびビデオ再生ページ、およびその他の信号ソースページ：音量を上げたり下げたりします。
	● OSD ページ：確定。 ● その他のページ：現在の入力信号源を表示します。
	● OSD ページ：短く押すと、前のページに戻るか、OSD ページを終了します。 ● 信号源ページ：信号源ページを終了します。 ● USB 再生用のファイル選択：再生。 ● その他のページ：OSD ページに入ります。
	電源スイッチ。 ● 動作状態： – 画面をオフにするには短く押してください。もう一度短く押すと

	画面表示を復元します。 – 3秒間長押しすると、デバイスの電源が切れます。 ● シャットダウン状態：短押しでデバイスの電源を入れます。
	電源インジケーター。 ●デバイスがスタンバイモードのときは、電源インジケーターランプが白く点灯します。 ●デバイスの電源がオンまたはオフのときは、電源インジケータライトは消灯しています。

1.3 背面パネル

本体の背面パネルにあるインターフェースは、次のように定義されています。

Figure 1-2 背面パネルのインターフェース

Table 1-2 背面パネルのインターフェースの説明

インターフェース	説明	インターフェース	説明
DC	DC電源入力インターフェース	HDMI	HDMIデジタル信号入力インターフェース
USB	USB 2.0 インターフェース	USB	USB 2.0 インターフェース
CONSOLE	デバイスデバッグインターフェース		3.5 mm オーディオ出力インターフェース
RJ45	RJ45ネットワークインターフェース	/	/

Note

パネルのインターフェースは、デバイスのモデルによって異なる場合があります。具体的なインターフェースについては、お使いのデバイスの実際のモデルをご参照ください。

第2章 設置およびケーブル接続

Note

設置図はあくまで参考用です。

2.1 ベースの設置

Step 1 本体をそっと持ち上げます。厚手の柔らかい布を敷いた安定した面に画面を下にして置き、ブラケットを取り付けるために本体の底面が面の端に近くなるようにします。

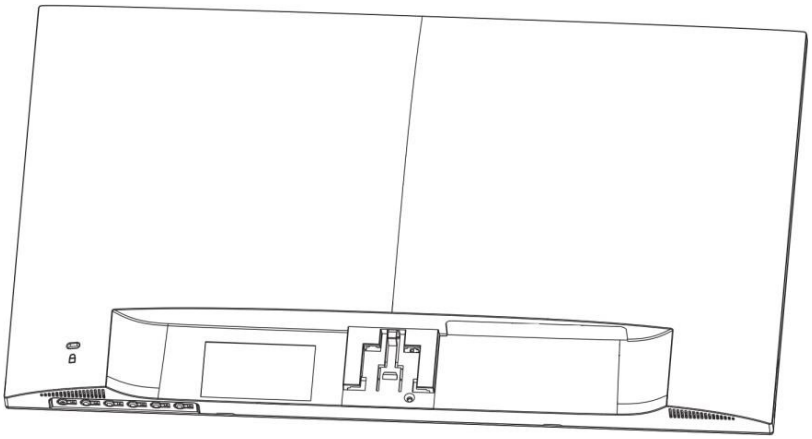


Figure 2-1 モニターの設置

Step 2 梱包箱からブラケット、ケーブルタイ、およびベースを取り出します。ケーブルタイをブラケットの穴に合わせ、ブラケットに挿入します。次に、ブラケットをベースの留め金に合わせ、時計回りに固定します。

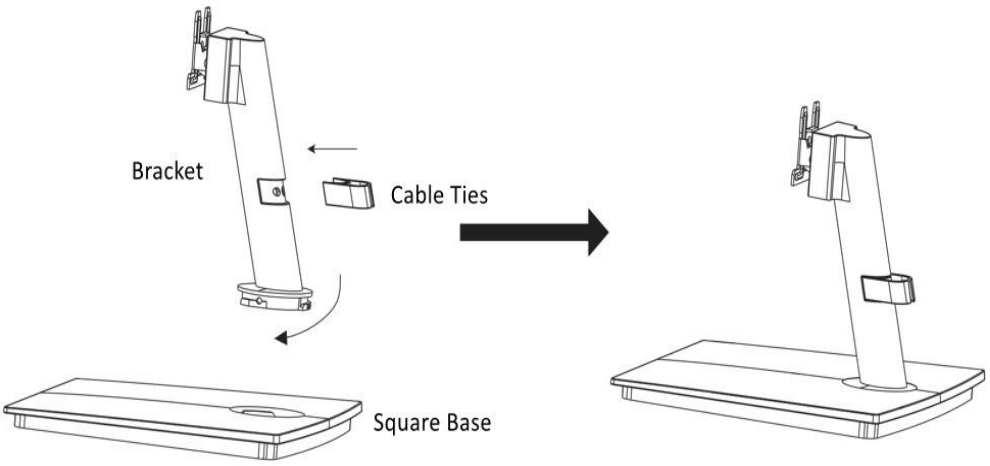


Figure 2-2 ブラケットをベースに固定する

Step 3 四角いベースのブラケットにある金属部品を、デバイスの背面にあるスロットに合わせ、差し込みます。

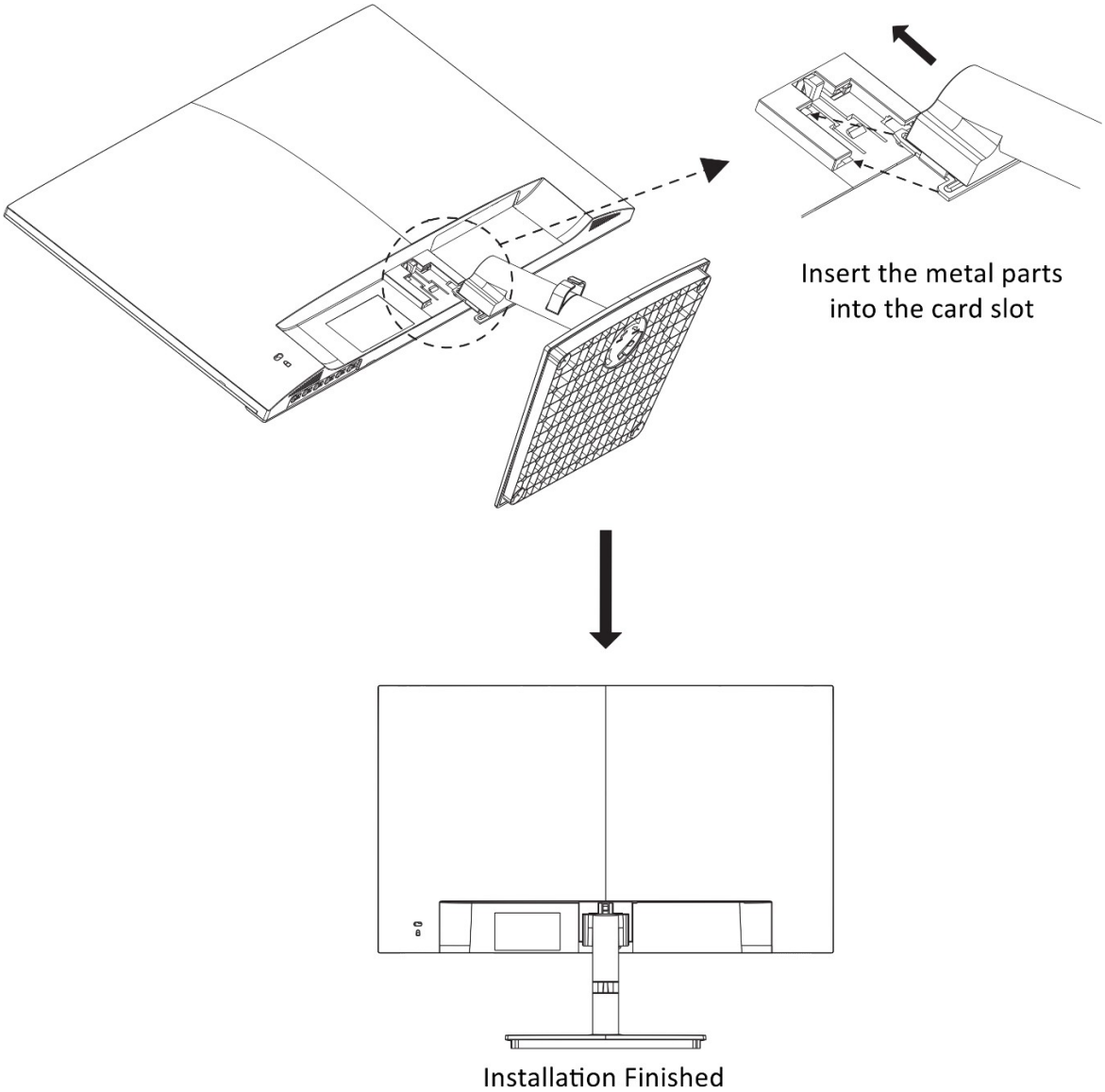


Figure 2-3 ブラケットを本体に取り付ける

Step 4（オプション）四角いベースを取り外すには、以下の手順を行ってください。

1) デバイスの背面にあるスナップバックを押し続けながら、下方向にパンしてブラケットを引き抜きます。

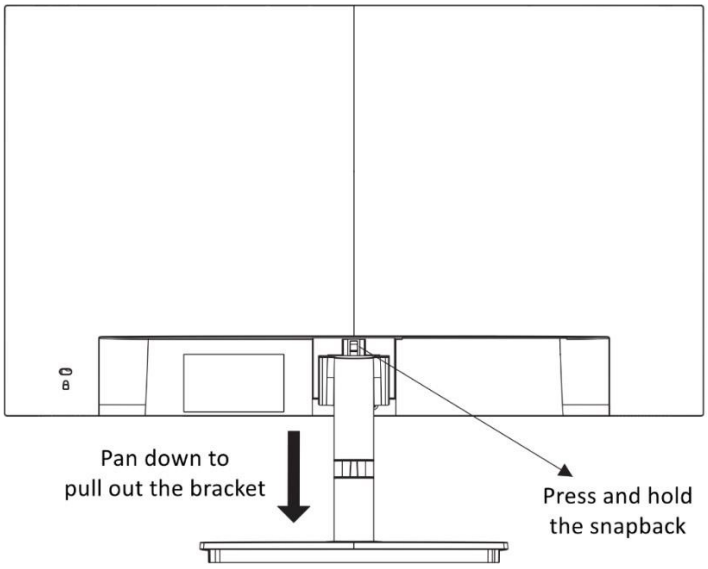


Figure 2-4 本体とブラケットを取り外す

2) ベース底部のバックルを指で締め、ブラケットを「OPEN」と表示された方向に回転させて、ベースから取り外します。

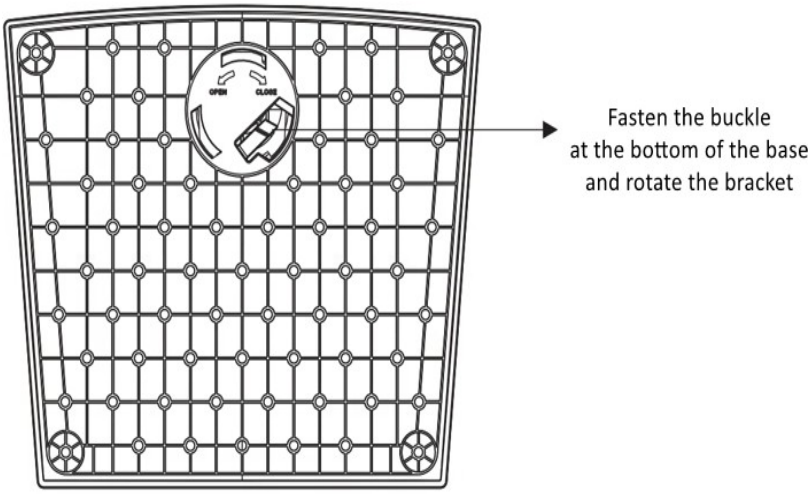


Figure 2-5 ベースからブラケットを取り外す

2.2 ヘリンボーンベースの取り付け

Step 1 デバイスをそっと持ち上げ、厚手の柔らかい布を敷いた安定した面に画面を下にして置きます。このとき、ブラケットを取り付けるために、デバイスの底面が面の端に近くなるようにしてください。

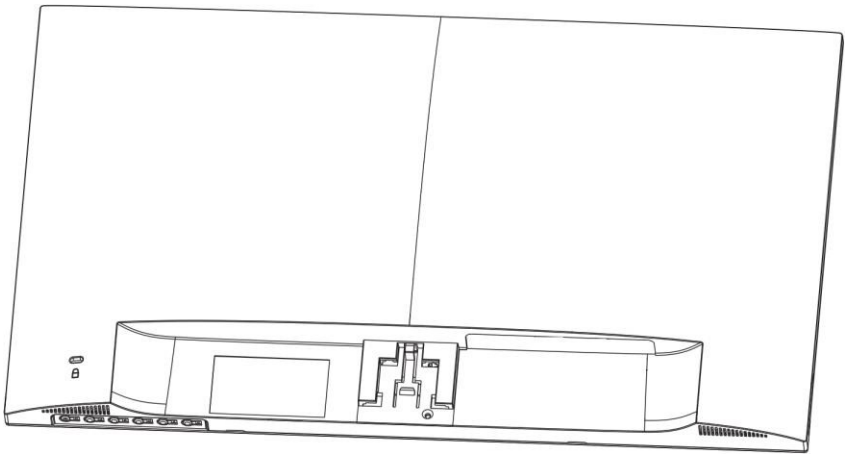


Figure 2-6 デバイスを平らに置く

Step 2 梱包箱からブラケットとヘリンボーンベースを取り出します。

- ブラケットとベースを取り付ける（モデルA）

ブラケットをヘリンボーンベースの溝に下向きに差し込みます。ベース底部のネジを締めて、ブラケットをベースに固定します。ブラケットを
ヘリンボーンベースに取り付けます。

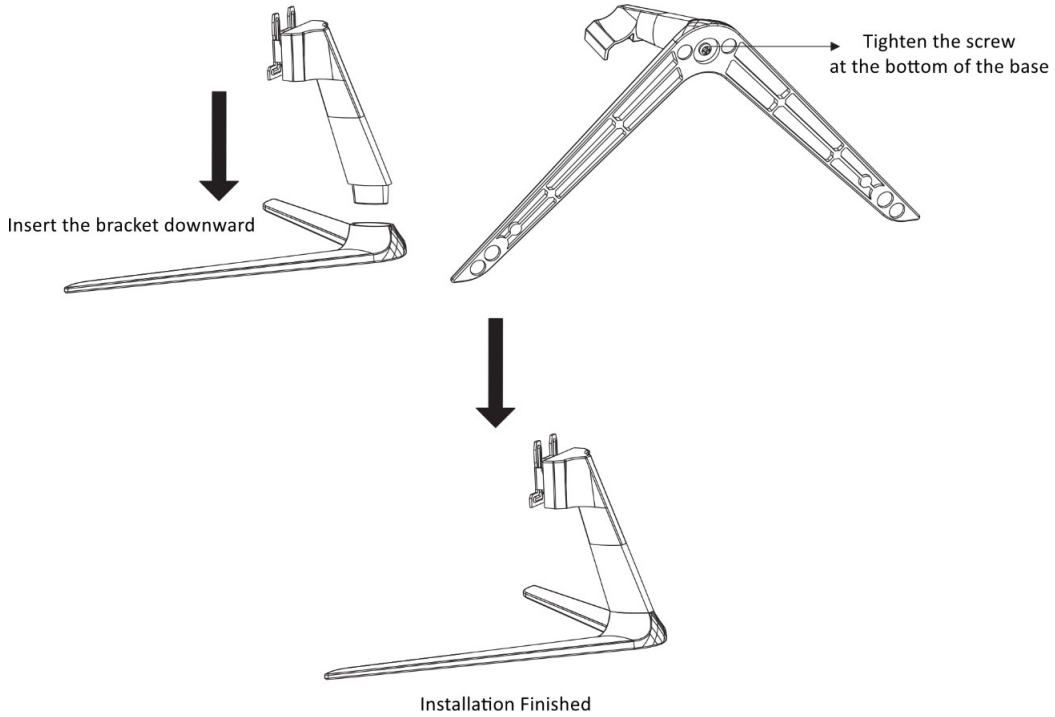


Figure 2-7 ブラケットとベースの取り付け（モデルA）

- ブラケットとベースの取り付け（モデル B）

カチッという音がするまで、ブラケットを下向きにヘリンボーンベースの溝に差し込みます。

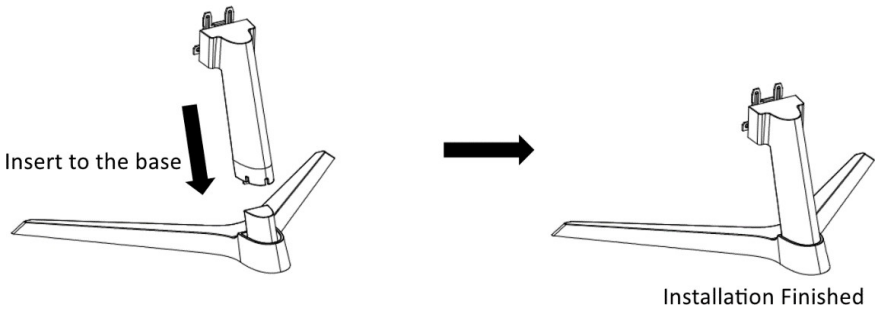


Figure 2-8 ブラケットとベースの取り付け（モデル B）

Step 3 専用工具を使用してブラケットを固定します。スクエアベースの固定方法の詳細については、「***2.1 ベースの取り付け***」の「***2.1 ステップ 3***」を参照してください。

Step 4 （オプション）ヘリンボーンベースを取り外す必要がある場合は、スクエアベースと同様の方法でブラケットとデバイスを取り外してください。詳細については、「***2.1 ベースの取り付け***」の「***手順 4***」を参照してください。

Note

ブラケットとベースを取り外す際は、ヘリンボーンベース底部のネジを緩め、ブラケットを持ち上げて取り外してください。

2.3 電源コードと信号ケーブルの接続

Step 1 電源コードを使用して、本機を接地された電源コンセントに接続してください。Step 2 HDMI 信号ケーブルを使用して、入力信号源機器を接続してください。

Step 3 本体の電源を入れます。

Caution

- 詳細な電圧および最大電流のパラメータについては、本体のパッケージにある製品ラベルをご参照ください。
- 本機を長期間使用しない場合は、電源を切り、プラグを抜いてください。
- 本体の背面パネルにある「⏻」を短く押して、スタンバイモードに入ります。⏻」をもう一度短く押すと、スタンバイモードが解除され、画面が点灯します。
- 待機時の消費電力：0.5 W 以下。
- デバイスの電源が入っており、HDMI または VGA 信号が入力されていない場合、画面に「No Signal」というメッセージが表示され、10 分後にスリープモードになります。つまり、デバイスはネットワークスタンバイモードに入り、最低の消費電力で動作します。HDMI または VGA

  信号が入力されたり、⏻すると、デバイスはネットワークスタンバイモードを終了し、画面が復帰します。
- ネットワークスタンバイ時の消費電力：2.0 W以下。

第3章 OSDの操作

3.1 信号ソースの選択

Step 1 を押して、信号ソースページに入ります。

Step 2 を押して入力ソースを切り替え、 を押して確定します。Step 3 を押して、信号ソースページを終了します。

3.2 OSDの操作

Step 1 短く押すと を短く押して、OSD ページに入ります。Step 2 メインメニューページを表示します。

1) を短く押してOSD ページに入ります。xml-ph-0000@deepl.internal メインメニューページを表示します。 または を短く押して、メインメニューページを表示します。
2) を短く押して、別のメインメニューページに切り替えます。Step 3 サブメニューページを表示します。

1) を短く押して、サブメニューページに入ります。
2) を短く押して、別のサブメニューページに切り替えます。Step 4 パラメータを調整します。

1) 短く押す または を短く押して、パラメータの値を調整します。
2) を短く押すと、別のパラメータに切り替わります。

Step 5 調整後、 を短く押して、メインメニューページに戻ります。Step 6 もう一度短く をもう一度短く押して、OSD ページを終了します。

3.3 OSD 機能

Table 3-1 OSD 機能の説明

メインメニュー	サブメニュー	説明
画像モード	画像モード	●標準：通常の環境に適しています。デフォルトの画像モードです。 ● ムービー： 動画の再生に適しています。 ●プレゼンテーション：ファイルやPPTなどの資料の再生に適しています。 ●監視：ビデオの再生に適しています。 ●ユーザー：明るさ、コントラスト、カラー、シャープネスをカスタマイズして、表示効果を調整します。
	輝度	0〜100。数値が高いほど、画像は明るくなります。
	コントラスト	0〜100。値が高いほど、画像は鮮明になります。
	カラー:	0〜100。値が高いほど、画像の色彩が豊かになります。
	シャープネス	0〜100。値を最大にすると、画像がより鮮明になります。
画像設定	色空間	「自動」モードでは、システムは入力信号源の色空間に基づいて、対応する色空間に自動的に適応します。信号源の出力の色空間の識別が一致しない場合、適切に適応させるために、0〜255 または 16〜235 を手動で切り替えることも可能です。
	アイケアモード	オフ／高／中／低。有効にすると、ブルーライトの放射を効果的に低減し、目の疲れを和らげ、視力を保護します。
	アスペクトモード	16:9／4:3／P-to-P。画像のアスペクト比を調整します。
ID設定	設定モード	●自動：行数／列数／自動設定を構成します。 ● 手動：行／列を設定します。
	行 / 総行数	1〜15。
	列 / 列数	1〜15。
	自動設定	自動設定。

メインメニュー	サブメニュー	説明
制御リンク方法	制御リンク方法	オフ／オン。
	ビデオウォールNo.	1〜100。
	インテリジェント・シーン	オフ／オン。
キーパッド	キーパッド	必要に応じてキーパッドを有効または無効にします。
アラーム設定	過熱アラーム	温度が指定値を超えると、アラームが作動します。
	アラーム温度(°C)	0〜100。アラーム温度を設定します。
USB設定	USB 自動再生	オフ/写真/動画。 対応ビデオエンコーディング：AVC（デフォルトのビットレートモード CBR）、MPEG-4 Visual XVID、VC-1 WMV3、FFDS FLV1、V_MPEGH/ISO/HEVC（H265）など。 サポートされるオーディオエンコーディング：AAC、MPEG オーディオ MP3、MPEG オーディオレイヤー 2、PCM、MPEG オーディオ MP3 ビットレートモード VBR など。
オーディオモード	ミュート	デバイスの音声をミュートまたはミュート解除します。
	音量	0〜100。デバイスの音量を調整します。
	バランス	0〜100。左右のスピーカー間のバランスを調整します。
システム情報。	ソフトウェアバージョン	デバイスのソフトウェアバージョン。
	デバイスID	デバイス ID 情報。
	現在の温度(°C)	デバイスの現在の温度。
	シリアル番号	デバイスのシリアル番号。
	デコーダバージョン	デバイスのデコーダバージョン。
OSD設定	言語	OSD の言語を設定します。
	OSD表示時間	常時表示 / 15秒 / 30秒。操作がない場合にOSDメニューが表示されるまでの時間を設定します。
	自動スリープ	オフ / 5分 / 10分。自動スリープまでの時間を設定します。
	信号なし	青／ロゴ／黒。信号がないときの画面の背景を設定します。
	自動入力ソース	オフ／オン。

メインメニュー	サブメニュー	説明
メンテナンス	アップグレード（USB）	USBフラッシュドライブを挿入して、ソフトウェアのバージョンをアップグレードします。
	初期設定に戻す	デフォルト設定に復元します。

第4章 ローカルデバイスの操作

ローカルデバイスの設定ページでは、デバイスの IP アドレスの設定、信号
ソース/グループ/シーンの追加、ウィンドウ分割の編集、すべてのカメラ/シーンの自動再生の有効化、工場出荷時の設定への復元、デコードパラメータの表示/非表示などが行えます。

デバイスをアクティブ化する際は、パスワードの設定に関して以下の要件に従ってください。

- システムのセキュリティを向上させるため、パスワードを定期的に変更することを強く推奨します。プライバシーや企業データを保護し、ネットワークセキュリティ上の問題を回避するため、
  セキュリティ要件を満たす強力なパスワードを設定することを推奨します。
- パスワードは 8 ～ 16 文字で、数字、小文字、大文字、特殊文字のうち、少なくとも 2 種類を含む必要があります。
- パスワードには、ユーザー名、「123」、「admin」（大文字小文字は区別されません）、4 桁以上の連続した昇順または降順の数字、4 文字以上の連続した同じ文字を含めることはできません。

4.1 ローカルでのアクティベーションと IP アドレスの設定

Step 1 マウスを接続してください。初めてデバイスの電源を入れて起動すると、アクティベーションページが表示されます。

Step 2 アクティベーションパスワードを設定し、**「OK」**をクリックしま

す。Step 3 IPv4 アドレスを入力するか、**DHCP を有効にします**。

Figure 4-1 IP アドレスの設定

Step 4 [**次へ**] をクリックして、**カメラの操作画面**に進みます。

Figure 4-2 カメラの操作

4.2 カメラの追加

デコードして表示する信号源を追加します。

4.2.1 Add Online

Step 1 **[デバイスの追加]** → **[オンラインの追加]** をクリックすると、システムが自動的に同じ LAN 上のカメラをスキャンします。

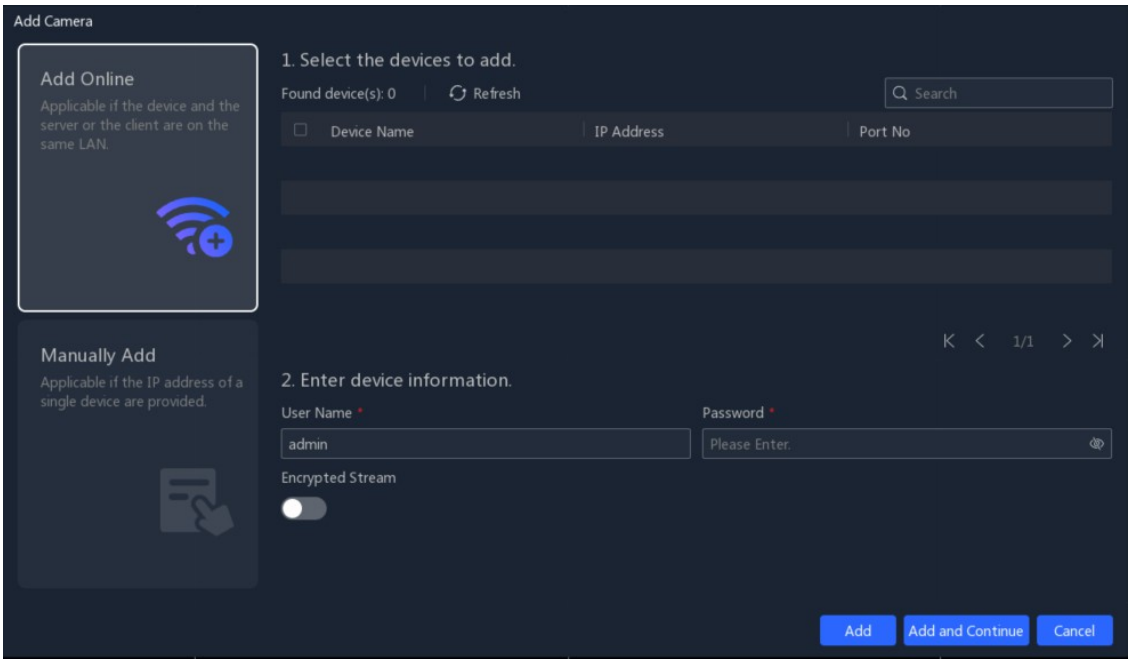


Figure 4-3 オンラインカメラの確認

Step 2 カメラを選択し、ログイン用のユーザー名とパスワードを入力します。Step 3 必要に応じて「**暗号化ストリーム**」を有効にし、「**追加**」をクリックします。

4.2.2 Manually Add

[デバイスの追加] → **[手動で追加]** をクリックして、IP アドレスまたは IP アドレスの範囲でカメラを追加します。

IP アドレスによる追加

既存のカメラの IP アドレスを入力して追加します。

Step 1 **[IP アドレス]** を選択し、追加するカメラの IP アドレス、ユーザー名、パスワード、ポート No.などを入力します。

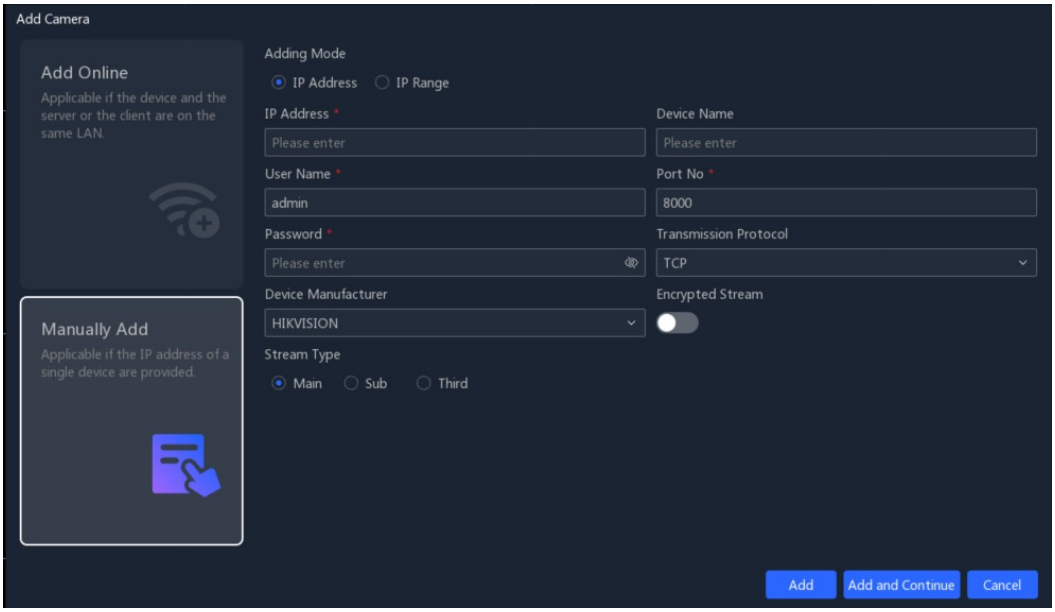


Figure 4-4 IP アドレスによるカメラの追加

Step 2 実際のニーズに応じて「**ストリームタイプ**」を選択し、「**暗号化ストリーム**」を有効にしてください。**「追加」**をクリックすると、デバイスが自動的にデコードを行い、カメラの映像を表示します。

IP範囲による追加

複数のカメラが同じIPアドレス範囲にあり、ログイン用のユーザー名とパスワードが同じ場合は、IPアドレス範囲を入力することで一括して追加できます。

Step 3 **「IP 範囲」**を選択し、IP アドレス範囲の最初の IP（例：192.168.1.1）と最後の IP（例：192.168.1.100）を入力するとともに、ユーザー名、パスワード、ポート No.などの情報を入力します。

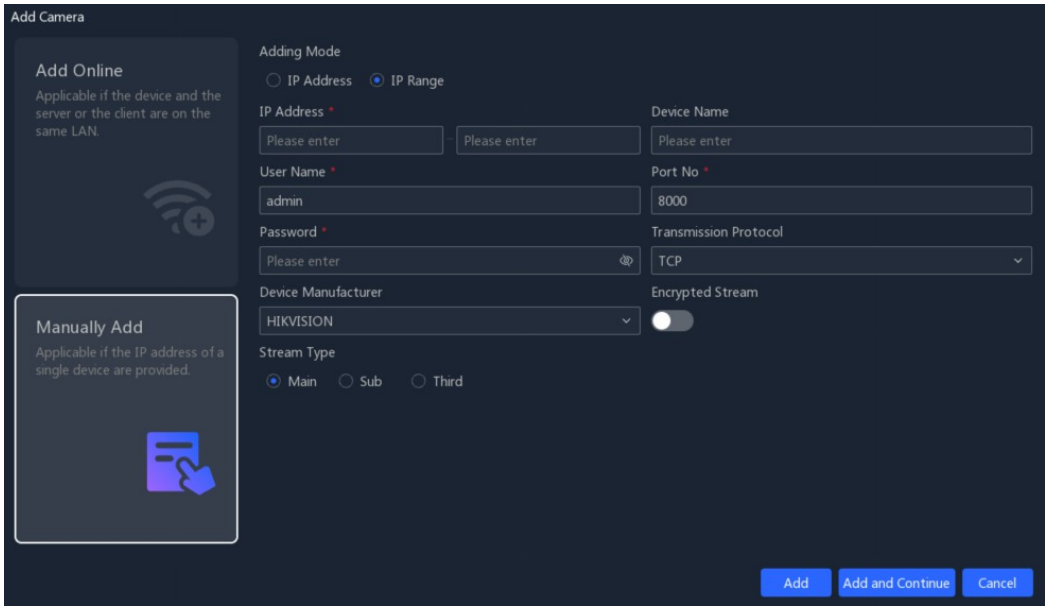


Figure 4-5 IP 範囲によるカメラの追加

Step 4 実際のニーズに応じて、「**ストリームタイプ**」を選択し、「**暗号化ストリーム**」を有効にします。**「追加」**をクリックすると、デバイスが自動的にデコードを行い、カメラの映像を表示します。

4.3 カメラの操作

レイアウトの切り替え

[**レイアウトの選択**] をクリックして、モード（1、4、6、8、9、16 画面など）を選択します。

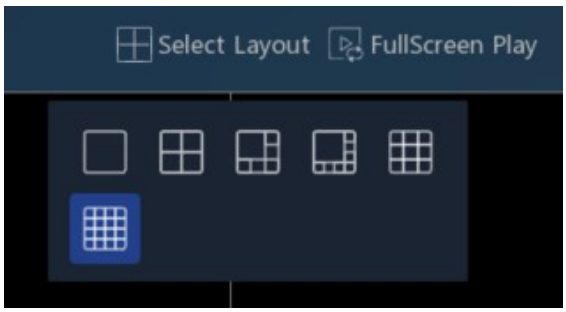


Figure 4-6 レイアウトの選択

カメラの再生

再生したいライブビュー上の領域にカメラをドラッグします。

Table 4-1 アイコンの説明

アイコン	説明
	再生を停止します。
	画像を拡大します。
	カメラのオーディオを再生します。リスト内のカメラ情報を編集します。
	リスト内のカメラ情報を編集します。
	リストからカメラを削除します。

4.4 グループの管理

カメラを異なるグループに追加して管理します。

グループの追加

[**グループ**] → [**グループの追加**] をクリックし、グループ名を入力して、待機時間を設定し、このグループに追加するカメラにチェックを入れます。[**OK**] をクリックします。

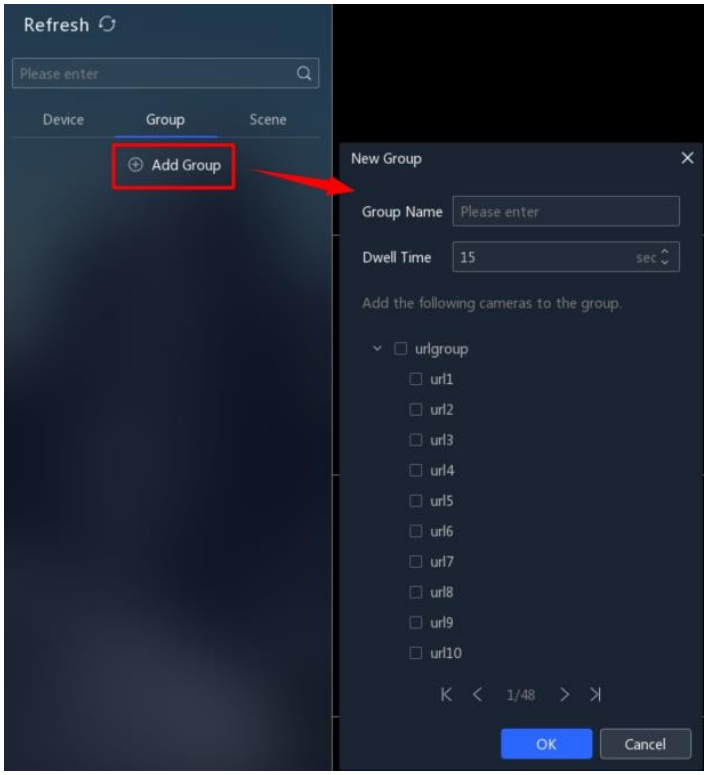


Figure 4-7 グループの追加

グループの再生

グループをカメラ再生エリアにドラッグし、表示時間を設定して、「**Enter**」をクリックします。システムが自動的に、そのグループ内のカメラのビデオを再生します。

Table 4-2 アイコンの説明

アイコン	説明
	自動切り替えを終了します。
	グループ名や表示時間を編集します。グループ内のカメラを追加または削除します。
	グループを削除します。

4.5 シーンの管理

現在のビューレイアウトを新しいシーンとして保存するか、既存のシーンと置き換えて、素早く呼び出せるようにします。

シーンの保存

[シーン] → **[シーンを保存]** をクリックし、シーン名を入力します。**[OK]** をクリックします。

Table 4-3 アイコンの説明

アイコン	説明
	対象のシーンを呼び出します。
	シーン名を編集します。
	シーンを削除します。

4.6 カメラ／シーンを再生

全画面再生

- 現在のレイアウトを再生

  「全画面再生」→「現在のレイアウトを再生」をクリックして、現在のレイアウトを全画面で再生します。

- 全画面表示を終了

  マウスを動かし、「 」をクリックして、デバイスのログインパスワードを確認した後、フルスクリーン再生を終了します。

- サブウィンドウの全画面再生

  全画面モードでは、ウィンドウをダブルクリックして全画面表示にすることができます。もう一度ダブルクリックすると、全画面表示を終了します。

すべてのカメラを再生

「フルスクリーン再生」→「**全カメラの自動再生**」をクリックし、表示時間を設定します。**「OK」**をクリックします。 **シーン再生**

[全画面再生] → **[シーンの自動再生]** をクリックし、再生するシーンにチェックを入れ、[ ] をクリックして、表示時間を設定します。**[OK]** をクリックします。

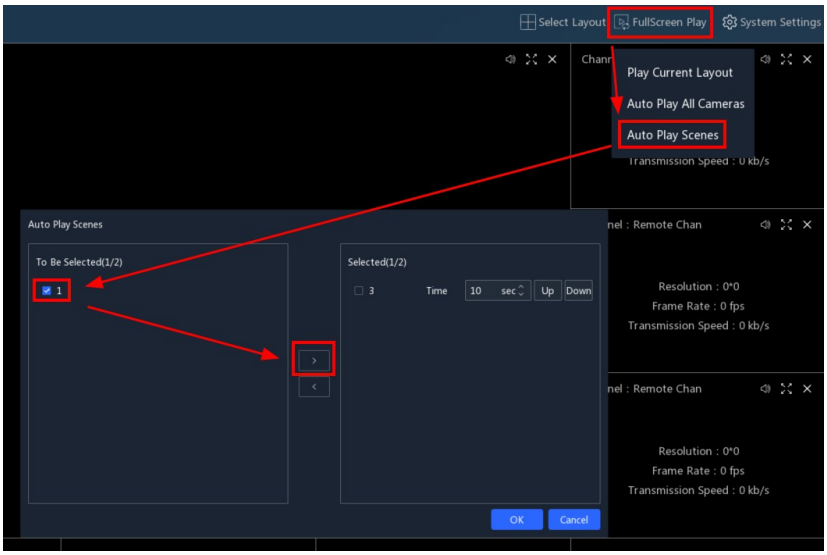


Figure 4-8 シーンの再生

4.7 録画の再生

録画の再生には、通常再生と時間分割再生の 2 つのモードがサポートされています。再生インターフェース上のアイコンの説明を以下に示します。

Table 4-4 アイコン 説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	すべて閉じる： 再生ウィンドウを閉じる 再生ウィンドウを閉じます。時間分割再生のセグメント数： チャンネル。	4 9 16	再生回数 時間指定 分割再生：4、9、または 16.
	レイアウトの選択：レイアウトを 画面レイアウトを選択します（1、4、6、8、9、または16分割に対応しています。		スロー再生： 分割数の減少に対応 再生速度を 1/2X、1/4X、および1/8Xに設定可能です。 オーディオはオフです 再生速度 再生中はオーディオが無効になります。
	人物検知 再生：通常再生中 再生中に、ビデオの 人物が 登場するセグメントを検索します。	1X	再生速度の種類： 希望する 再生速度を選択してください。
	車両検出 再生：通常再生中 再生中に、ビデオの 車両が映っている 登場するセグメントを検索します。		高速再生： 再生速度の 再生速度を1Xまで （デフォルト）、2X、4X、および 8倍速。オーディオはオフになります 再生速度 再生中はオーディオが無効になります。
30s	30 秒巻き戻し：スキップ 30秒分 再生から。		再生を 再生を 前回の期間 特定の タイムラインタイプ。
	録画の再生は 一時停止されています。 クリックして、次の期間の再生を開始または再開します		再生を 再生を 次の期間の

	再生中はオーディオが無効になります。		特定の タイムラインタイプ。

アイコン	説明	アイコン	説明
	録画の再生中です。クリックすると再生を一時停止します。	24h	タイムラインの種類：24時間（デフォルト）、8時間、1時間。 ●通常の再生中、タイムラインの設定はすべての再生ウィンドウに同時に適用されます。 ●タイムスプリット再生中は、タイムラインの設定は選択された再生ウィンドウにのみ適用されます。
	30秒早送り： 再生中に30秒先へスキップ 再生中		非同期 再生（デフォルトのモード）： 再生中、 再生 再生速度の設定、 録画の再生や一時停止、 再生の一時停止や再生、進行状況バーのドラッグ 再生バーのドラッグ、および早送りや スローモーション再生 は、 選択された再生 ウィンドウにのみ適用されます。
----/--/-- --:--:--	日付と時刻の表示：現在の再生日時を表示します。		同期再生（通常再生でのみサポート）：再生中、再生速度の設定、録画の一時停止や再生、プログレスバーのドラッグ、早送りやスローモーション再生などの操作は、すべての再生ウィンドウに に同時に適用されます。

通常再生

1 つのチャンネル、または複数のチャンネルのビデオを、同じ期間について同時に再生します。Step 1 **[再生]** → **[通常]** をクリックします。

Step 2 (オプション) 再生レイアウトを選択します。

Step 3 カレンダーをクリックして、再生日を選択します。デフォルトでは、今日の日付が選択されています。

Step 4 目的のチャンネルを選択し、再生ウィンドウにドラッグして、選択した日付のビデオファイルを再生します。

Note

- チャンネルを再生ウィンドウにドラッグすると、インターフェースの左下にあるカレンダーの日付の右上隅に、青い三角形のインジケーターが表示されます。
- 選択した日付の録画が見つからない場合は、「録画が見つかりません」というメッセージが表示されます。Step 5（オプション）必要に応じて、再生モード、タイムラインの種類、再生速度などを設定します。

Step 6 (オプション) 「 」または「 」をクリックして、人や車両が登場するビデオセグメントを表示します。

Note

- 人物や車両が登場すると、そのビデオセグメントのタイムラインの進行状況バーがオレンジ色に変わります。
- 人物や車両が映っているビデオセグメントの表示品質は、ビデオストレージデバイスの容量および構成によって異なります。

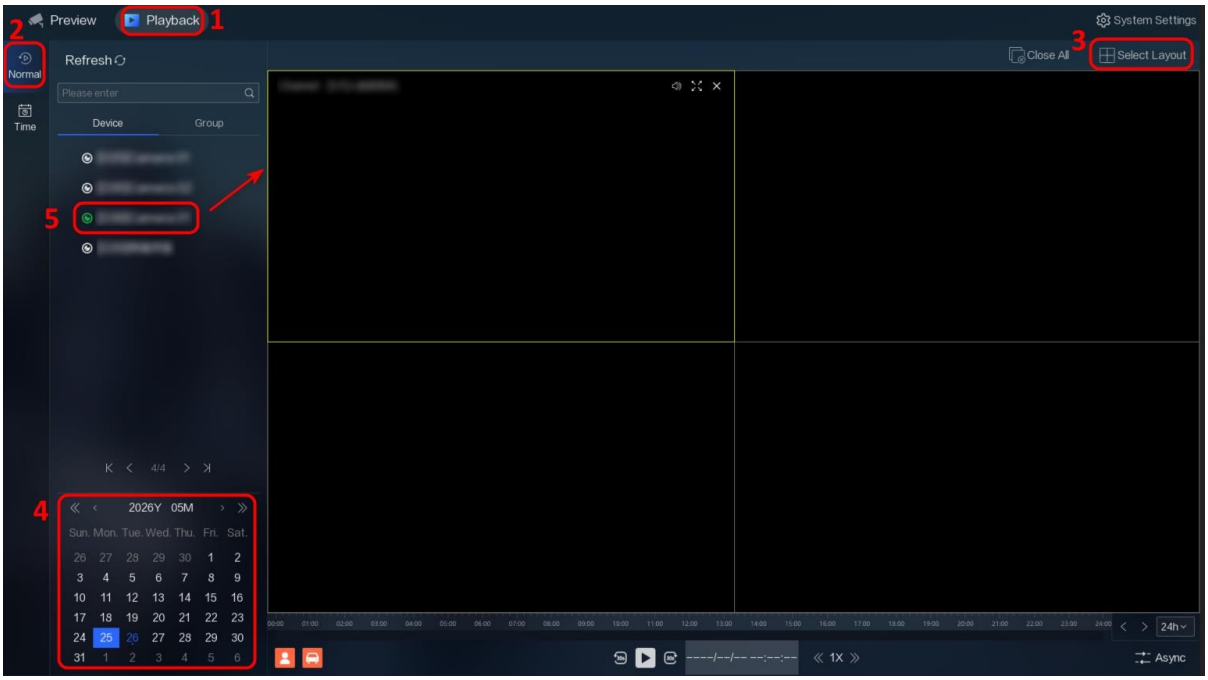


Figure 4-9 通常再生

時間分割再生

非同期再生のために、指定した期間内のチャンネルのビデオ時間を、時間分割の数に応じて複数のウィンドウに均等に分配します。

Step 1 [**再生**] → [**時間**] をクリックします。

Step 2 クリックして目的のチャンネルを選択します。

Step 3 クリックして再生日を選択し、開始時刻と終了時刻を設定します。

Step 4 [**再生開始**] をクリックするか、チャンネルを再生ウィンドウに直接ドラッグして、選択した日付のビデオファイルを再生します。

Step 5 （オプション）必要に応じて、現在のデバイスの録画について、時間セグメントの数、再生速度の種類、タイムラインの種類などを設定し、ビデオを再生します。

Figure 4-10 時間分割再生

4.8 システム設定

デバイスの IP アドレスの編集

[システム設定] → [デバイスの IP アドレスを設定] をクリックして、デバイスの IP アドレスを編集します。

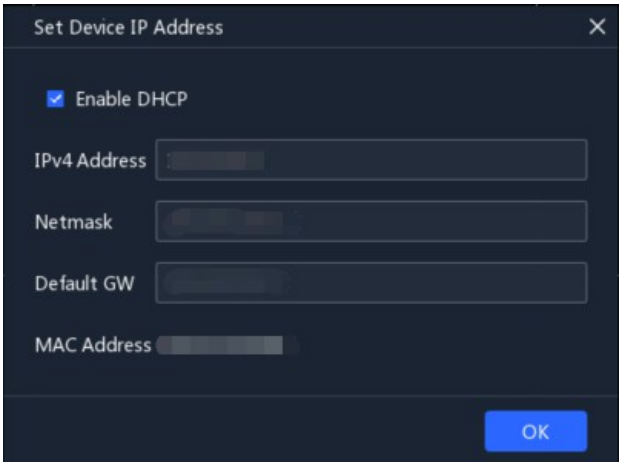


Figure 4-11 デバイスの IP アドレスを編集

工場出荷時設定への復元

「**システム設定**」→「**工場出荷時設定に復元**」→「**OK**」の順に進み、「**簡易復元**」または「**完全復元**」を選択します。デバイスのアクティベーション時に設定したパスワードを入力し、「**OK**」をクリックします。

- 簡易復元

  ネットワーク設定およびユーザー情報を除くすべてのパラメータが工場出荷時の設定に復元されます。操作の際は十分にご注意ください。

- 完全復元

  デバイスのすべての機能とパラメータが工場出荷時の設定に復元されます。操作の際は十分にご注意ください。

パラメータの表示

「**システム設定**」→「**パラメータの表示**」を選択すると、画面に解像度と伝送速度が表示されます。

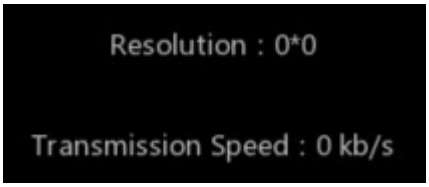


Figure 4-12 パラメータの表示「**システム設定**」→「**パラメータの非表示**」をクリックすると、パラメータが非表示になります。

第5章 Web設定

5.1 デバイスのアクティベーションとログイン

デバイスを初めて使用する前に、デバイスをアクティベートする必要があります。SADP クライアントまたはデバイスの Web ページを使用して、デバイスをアクティベートできます。デバイスをアクティベートする際は、
以下の要件に従ってパスワードを設定してください：

- システムのセキュリティを向上させるため、パスワードを定期的に変更することを強く推奨します。プライバシーや企業データを保護し、ネットワークセキュリティ上の問題を回避するために、
  セキュリティ要件を満たす強力なパスワードを設定することを推奨します。
- パスワードは 8 ～ 16 文字で、数字、小文字、大文字、特殊文字のうち、少なくとも 2 種類を含む必要があります。
- パスワードには、ユーザー名、「123」、「admin」（大文字小文字は区別されません）、4桁以上の連続した昇順または降順の数字、4文字以上の連続した同一文字を含めることはできません。

SADP クライアントおよび Web ページの使用

Step 1 デバイスとコンピュータを同じ LAN に接続します。デバイスとコンピュータが同じネットワークセグメント内にあることを確認してください。

Step 2 Hikvision の Web サイトから SADP クライアントをダウンロードし、コンピュータにインストールします。

Step 3 SADP クライアントを開きます。

Step 4 アクティベートされていないデバイスを選択し、アクティベーションパスワードを入力して確認し、「**アクティベート**」をクリックします。

デバイスが検出されない場合は、SADPクライアントを再起動してください。

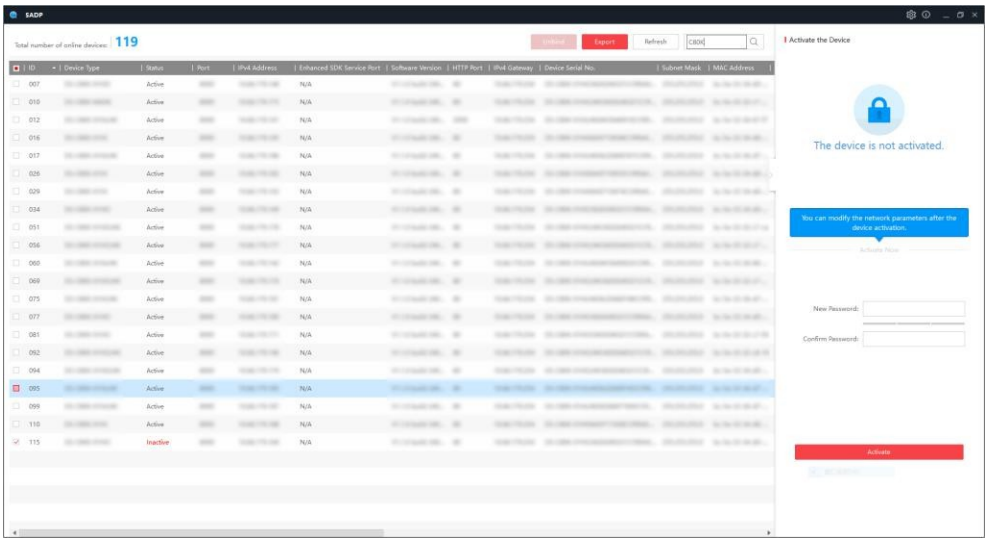


Figure 5-1 SADP クライアントを介してデバイスをアクティベートする

Step 5 SADP クライアントでデバイスの IP アドレスを確認し、コンピュータのブラウザにその IP アドレスを入力します。

Step 6 ユーザー名と設定済みのアクティベーションパスワードを入力し、「**Log In**」をクリックします。

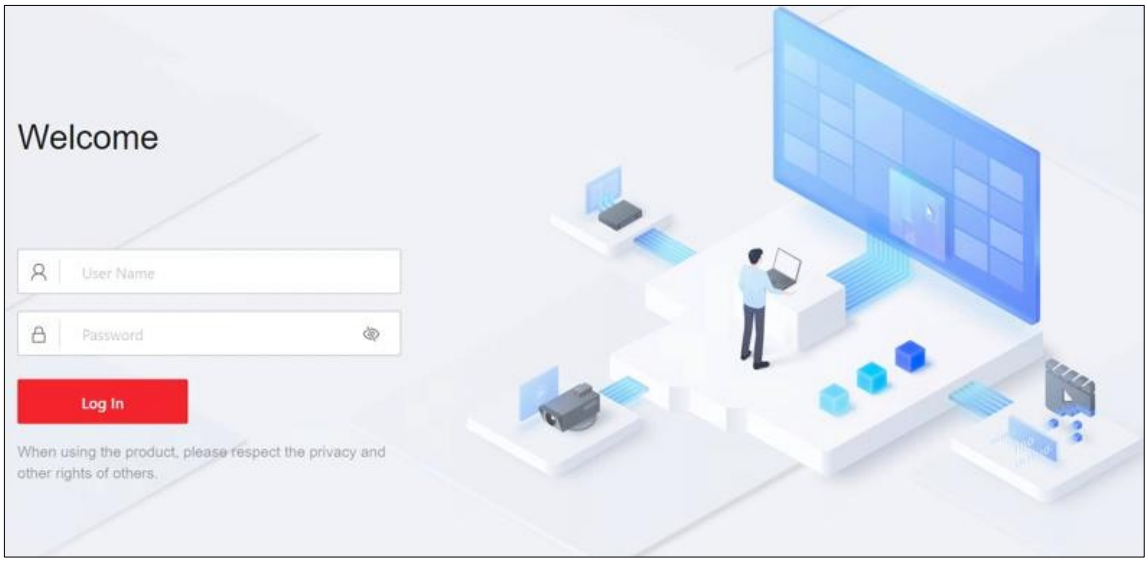


Figure 5-2 ログインページ

Step 7 （オプション）パスワードを編集するには、Web ページの右上隅にあるユーザー名をクリックし、[**パスワードの変更**] をクリックします。

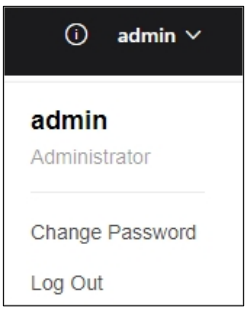


Figure 5-3 パスワードの変更

Webページを使用する

Step 1 ネットワークケーブルを使用して、コンピュータを本機に接続します。

Step 2 コンピュータの IP アドレスを 192.0.0.2 から 192.0.0.253 の範囲内の任意の IP アドレス（192.0.0.64 を除く）に設定し、コンピュータのゲートウェイアドレスを 192.0.0.1 に設定します。

デフォルトでは、デバイスの IP アドレスは 192.0.0.64、ゲートウェイアドレスは 192.0.0.1 です。

Step 3 コンピュータのブラウザに「192.0.0.64」と入力して、デバイスのアクティベーションページにアクセスします。

Step 4 アクティベーションパスワードを設定し、「**Activate**」をクリックします。

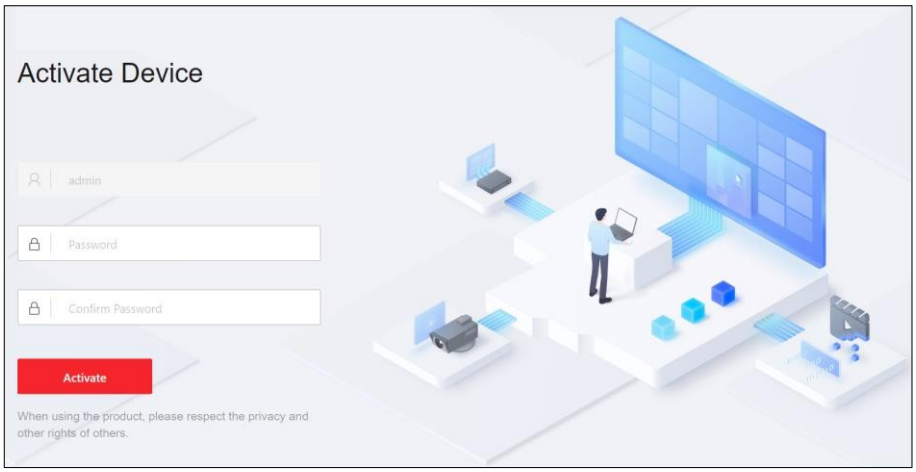


Figure 5-4 ブラウザからデバイスをアクティベートする

Step 5 ログインページでユーザー名と設定したアクティベーションパスワードを入力し、「**Log In**」をクリックします。

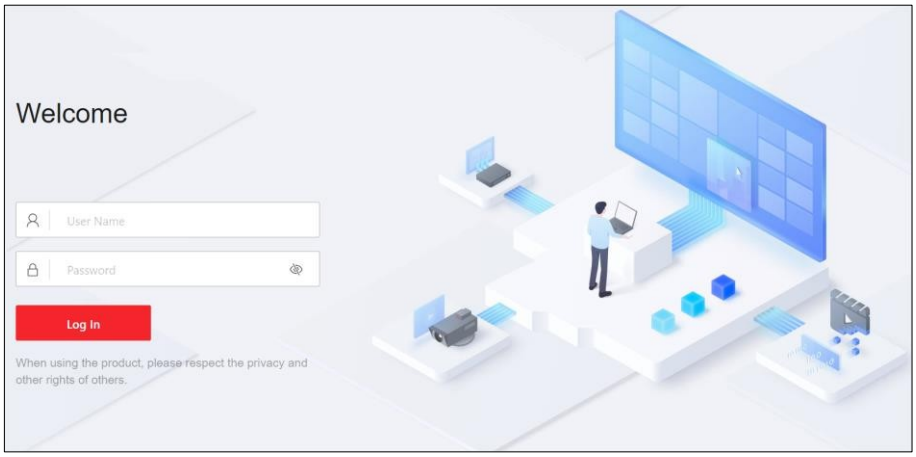


Figure 5-5 ログインページ

Step 6 (オプション) パスワードを編集するには、Web ページの右上隅にあるユーザー名をクリックし、[**パスワードの変更**] をクリックします。

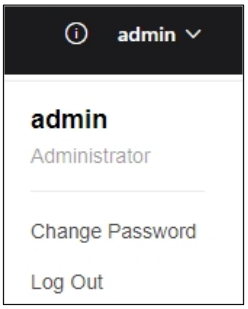


Figure 5-6 パスワードの変更

5.2 ネットワークアドレスの設定

TCP/IP の設定

開始する前に

デバイスがオンサイトネットワークに接続された後、デバイスとコンピュータが同じセグメント内にあることを確認してください。

手順

Step 1 [**Configuration**] → [**ネットワーク**] → [**ネットワーク Configuration**] → [**TCP/IP**] の順に選択します。

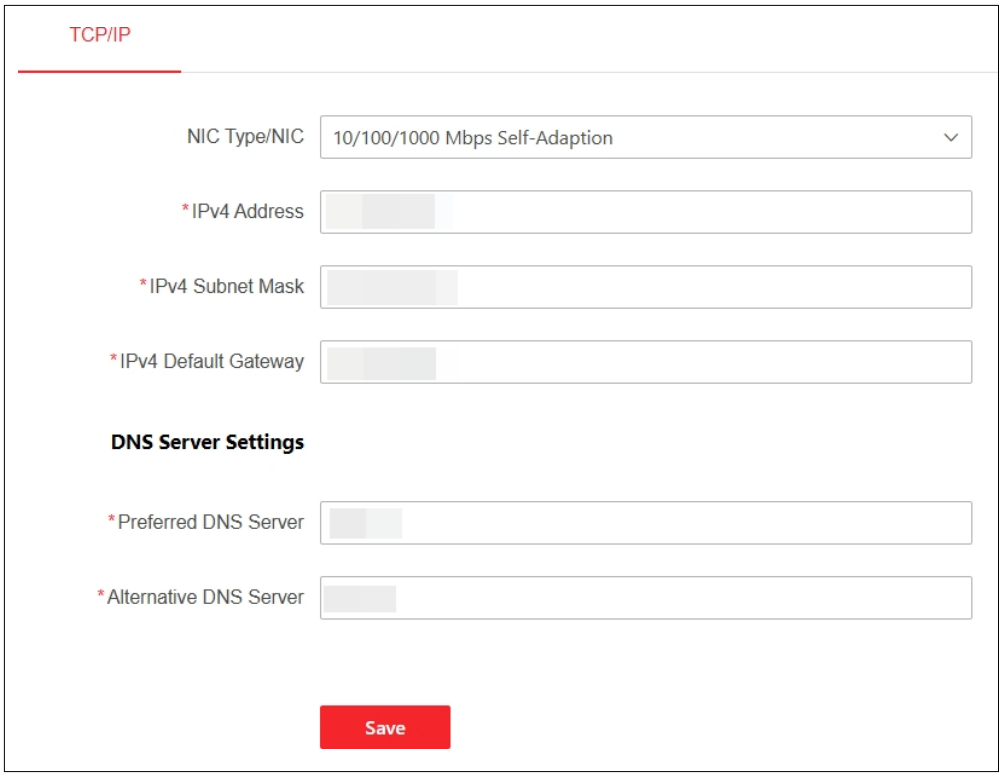


Figure 5-7 TCP/IP パラメータの設定

Step 2 IPv4 アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを設定します。

Step 3 優先 DNS サーバーおよび代替 DNS サーバーを設定します。

Step 4 [**保存**] をクリックします。

Step 5 デバイスとコンピュータを接続しているネットワークケーブルを取り外し、そのネットワークケーブルを使用して、デバイスをオンサイトネットワークに接続します。

Step 6 コンピュータのウェブブラウザーに、設定したデバイスの IP アドレスを入力して、デバイスのウェブページにログインします。

5.3 信号ソースの設定

5.3.1 Add a Network Signal Source

IP アドレスを介してネットワーク信号ソースを追加する

Step 1 **[ビデオウォールの操作]** → [**ソース**] に移動し、 をクリックし、「**IP アドレス**」を選択します。Step 2 信号ソース情報とストリームメディア情報を入力します。

- (オプション) [**暗号化ストリーム**] を有効にし、秘密鍵を入力します。
- 追加済みのグループを選択するか、[**グループの追加**] をクリックして新しいグループを作成します。
- **[詳細]** をクリックして、伝送プロトコル、ストリームタイプ、暗号化ストリーム、デバイスメーカー、およびストリーミングメディア情報を選択します。

  「**ストリーミングサーバー経由でストリームを取得**」を有効にすると、ストリーミングサーバーを経由してライブビューデータの転送を行うことができ、ネットワークへの負荷を軽減できます。

Step 3 [**保存**] をクリックします。

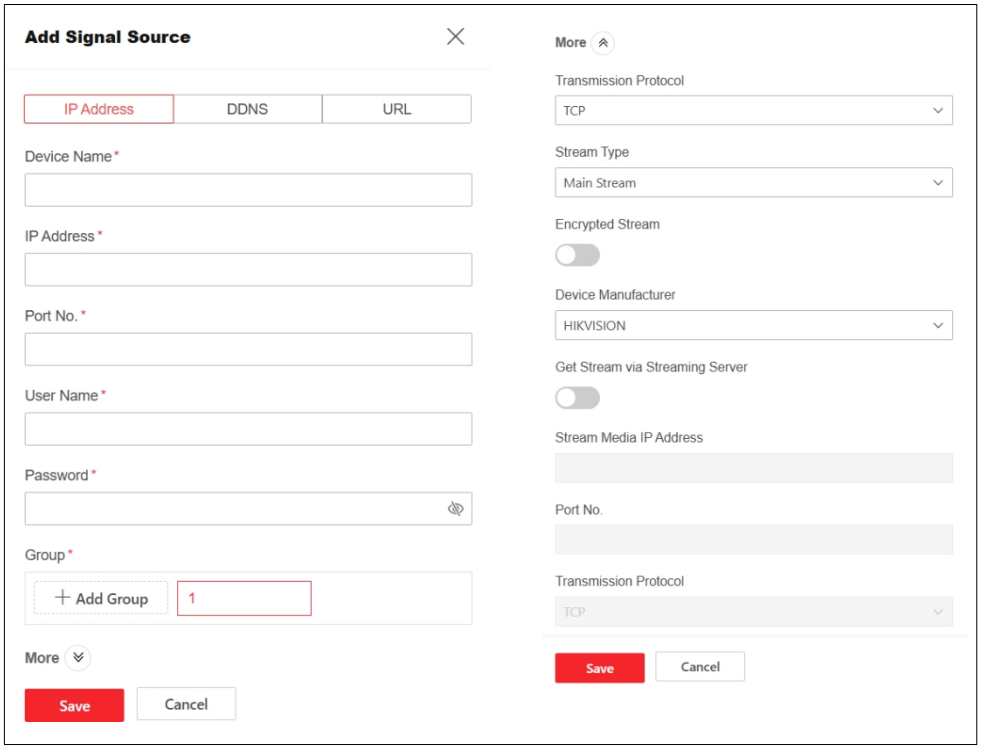


Figure 5-8 IP アドレスを使用してネットワーク信号ソースを追加する

DDNS 経由でネットワーク信号ソースを追加する

開始する前に

DDNS 経由でネットワーク信号ソースを追加する前に、[**TCP/IP**] ページで DNS サーバーを設定しておく必要があります。

Step 1 [**画面操作**] → [**信号ソース**] に移動し、 をクリックし、**[DDNS]** を選択します。Step 2 信号ソース情報とストリームメディア情報を入力します。

- (オプション) [**暗号化ストリーム**] を有効にし、秘密鍵を入力します。
- 追加済みのグループを選択するか、[**グループの追加**] をクリックして新しいグループを作成します。
- **[詳細]** をクリックして、伝送プロトコル、ストリームタイプ、デバイスメーカー、およびストリーミングメディア情報を選択します。

  「ストリーミングサーバー経由でストリームを取得」を有効にすると、ストリーミングサーバーを介してライブビューデータの転送を行うことができ、ネットワークへの負荷を軽減できます。

Step 3 [**保存**] をクリックします。

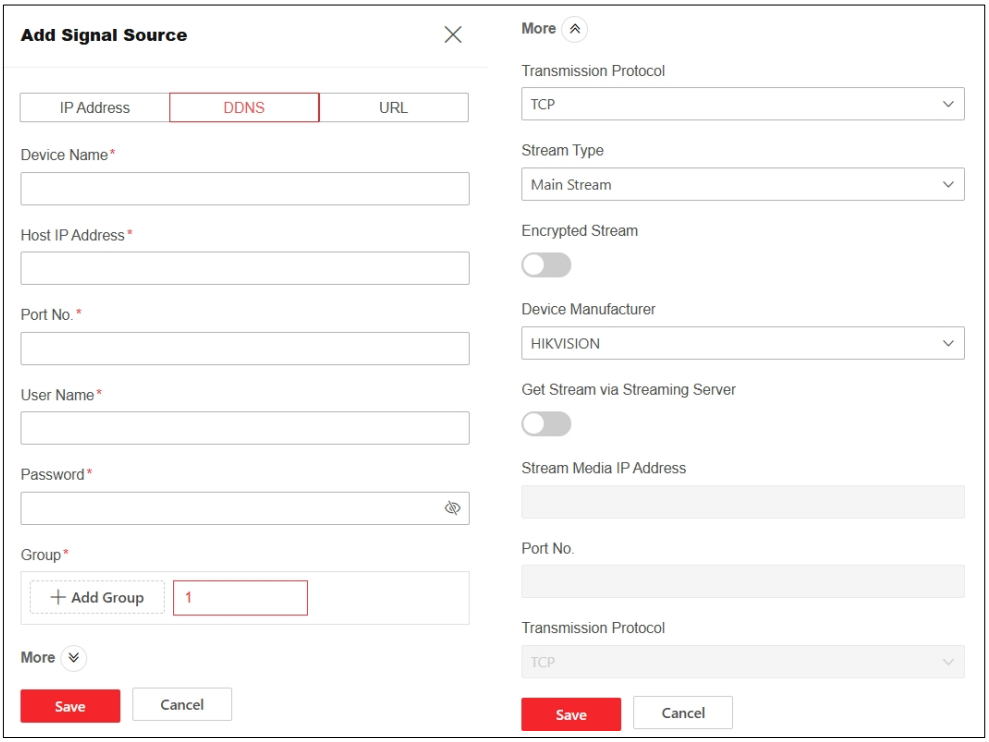


Figure 5-9 DDNS 経由でネットワーク信号ソースを追加する

URL を使用してネットワーク信号ソースを追加する

Step 1 [**画面操作**] → [**信号源**] に移動し、 をクリックし、**[URL]** を選択します。Step 2 デバイス名と URL を入力します。

Step 3 (オプション) [**暗号化ストリーム**] を有効にし、秘密鍵を入力します。Step 4 追加済みのグループを選択するか、[**グループの追加**] をクリックして新しいグループを作成します。Step 5 [**保存**] をクリックします。

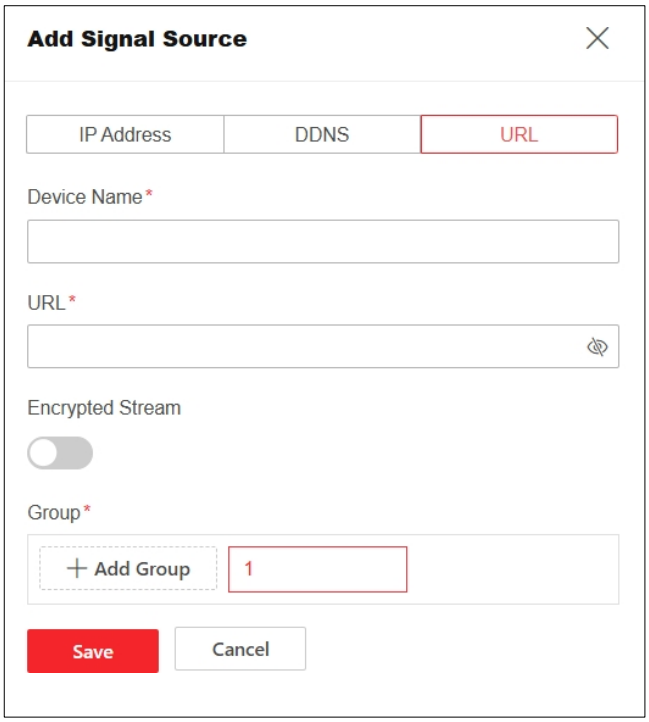


Figure 5-10 URL 経由でネットワーク信号源を追加する

5.3.2 Edit the Network Signal Source

[画面操作] に移動し、ネットワーク信号ソースにカーソルを合わせ、[⚙] をクリックしてパラメータを編集します。

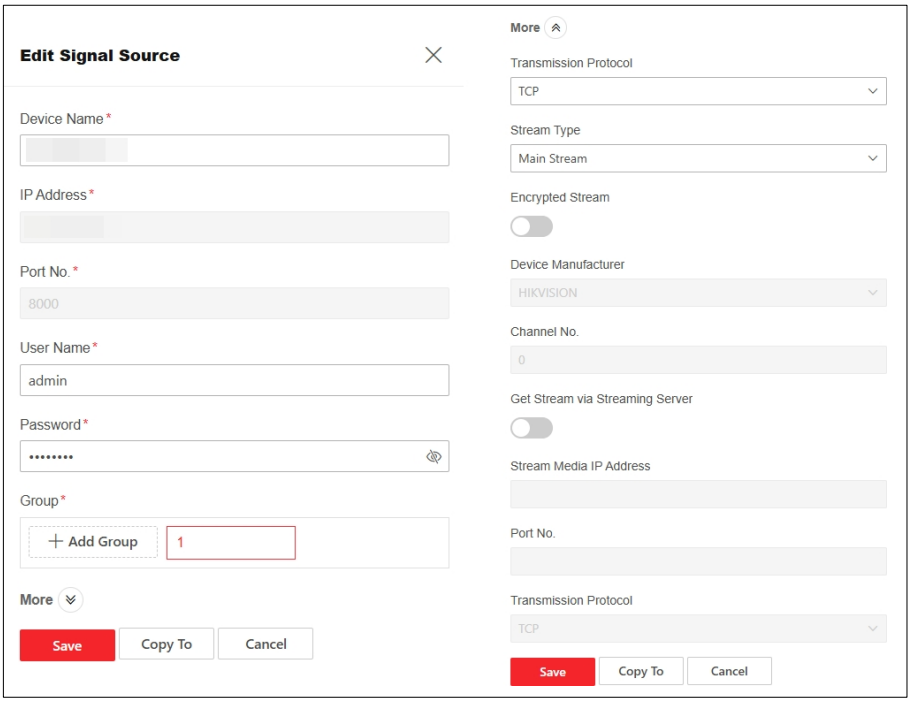


Figure 5-11 ネットワーク信号ソースの編集

5.3.3 Batch Delete Network Signal Sources

無効なネットワーク信号ソースを一括削除するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら複数のネットワーク信号ソースを選択し、[削除] をクリックします をクリックします。

5.3.4 Bind Network Signal Sources with the Video Wall

実際のニーズに応じて、以下のいずれかの方法で信号ソースをビデオウォールにバインドします：

- 信号ソースを選択し、ビデオウォールに向かって右方向にドラッグします。

  信号ソースをビデオウォールに紐付けると、デフォルトではその信号ソースのウィンドウが 1 つの画面を完全に覆います。

- 信号ソースをビデオウォールに一括で紐付けるには、以下のいずれかの方法を選択してください：

  — デフォルトの信号ソースグループ、または新しく作成したネットワーク信号ソースグループを、ビデオウォールに向かって右方向にドラッグします。

  — Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら、同じグループに属する複数の信号源を選択し、それらを右方向へドラッグしてビデオウォールに配置します。

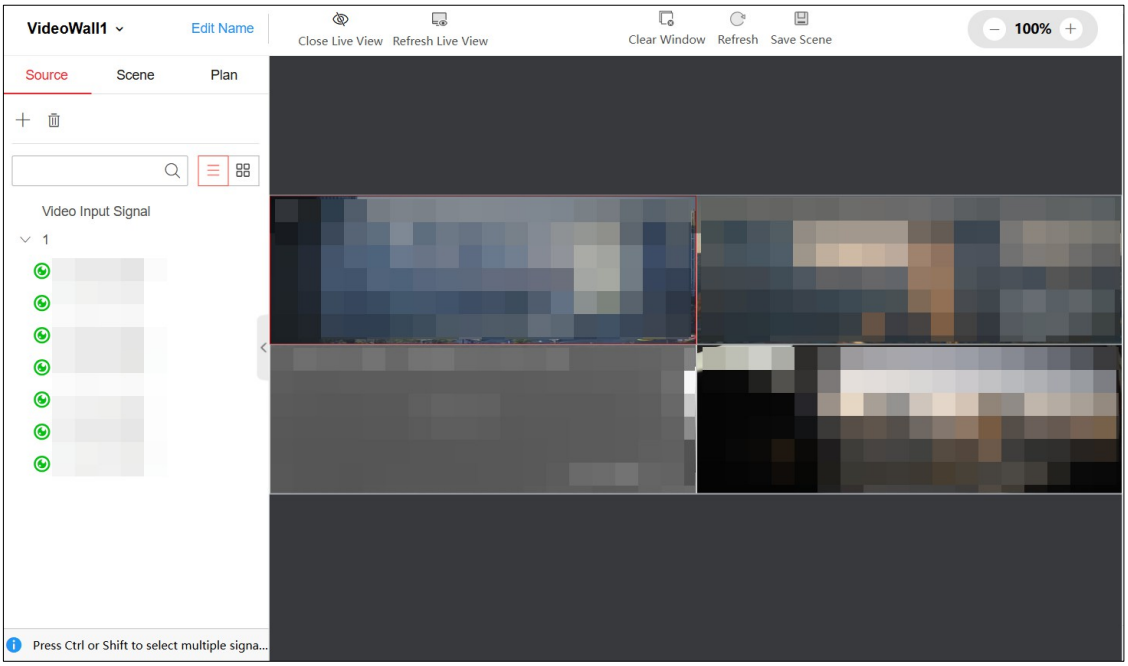


Figure 5-12 信号ソースをビデオウォールに一括バインドする

5.4 ビデオウォールの操作

「画面操作」ページに移動し、**「名前の編集」**をクリックしてビデオウォールの名前を変更できます。

5.4.1 Edit Signal Source Window Parameters

信号ソースウィンドウの編集

信号ソースウィンドウを選択し、必要に応じて以下の操作を行います。

- ウィンドウの位置を調整する：ウィンドウを直接移動するか、具体的なXおよびY値を入力します。
- ウィンドウの分割：ウィンドウ分割アイコンをクリックします。
- ウィンドウのサイズを調整する：
  - ウィンドウの端をドラッグしてサイズを調整します。
  - WおよびHの値を入力します。
  - ウィンドウの右上隅にある「 」をクリックすると、使用中の出力ポートを完全に覆うように表示され、「 」をクリックすると元のサイズに戻ります。
- ウィンドウを最下部に配置する： をクリックします。

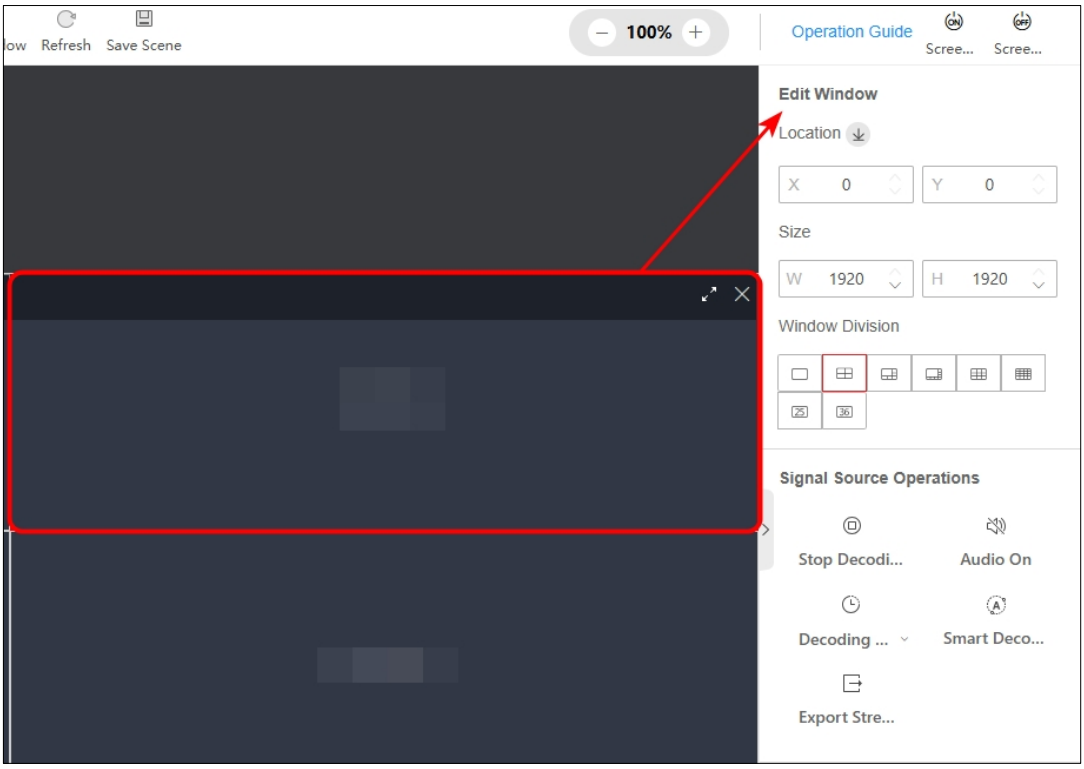


Figure 5-13 信号ソースウィンドウの編集

- 信号ソースウィンドウのオーディオを有効にします。

  信号ソースウィンドウを選択し、「**Audio On**」をクリックして、その信号ソースのオーディオを有効にします。

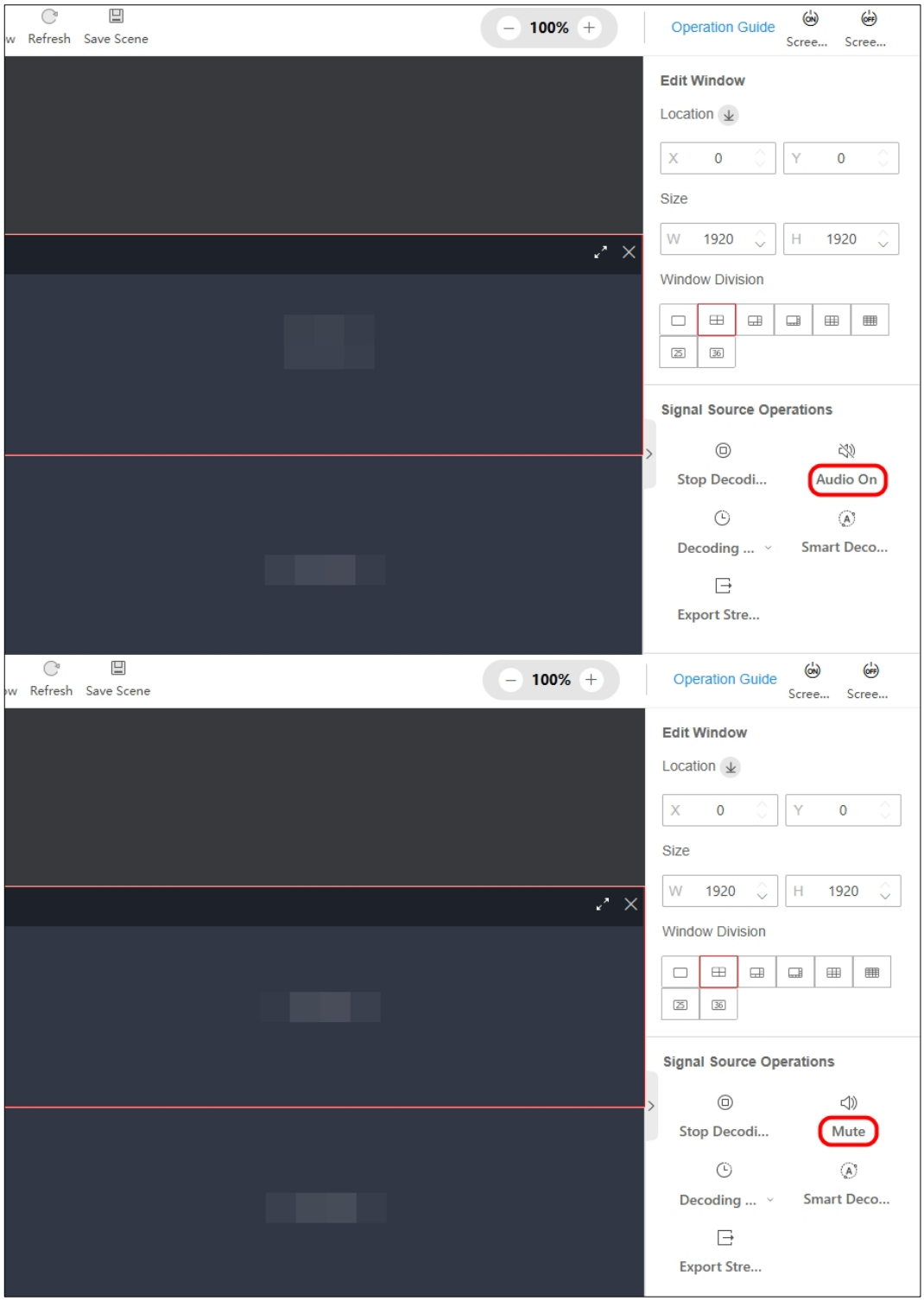


Figure 5-14 信号ソースのオーディオを設定する

- ネットワーク信号ソースを選択し、デコード状態、オーディオ状態、デコード遅延、スマートデコード、およびストリームのエクスポートを設定します。

  — デバイスでは、WebSocketがデフォルトで有効になっています。コードストリームをエクスポートするには、WebSocketが有効になっていることを確認し、以下の手順に従ってください。

1) **[メンテナンスとセキュリティ]** → [**セキュリティ管理**] に移動し、WebSocketが有効になっていることを確認します。有効になっていない場合は、WebSocketを有効にしてください。

2) ネットワーク信号ソースウィンドウを選択し、「ストリームのエクスポート」をクリックしてストリームをエクスポートします。

— スマートデコードを有効にすると、デバイスはネットワークカメラからのスマートアラームイベントをデコードできるようになります。

● 信号ソースグループの自動切り替えを設定します。「信号ソースウィンドウ」の右上隅にある「 」をクリックし、信号ソースグループを選択して、画像間隔を設定した後、「**Start Auto-Switch**」をクリックします。

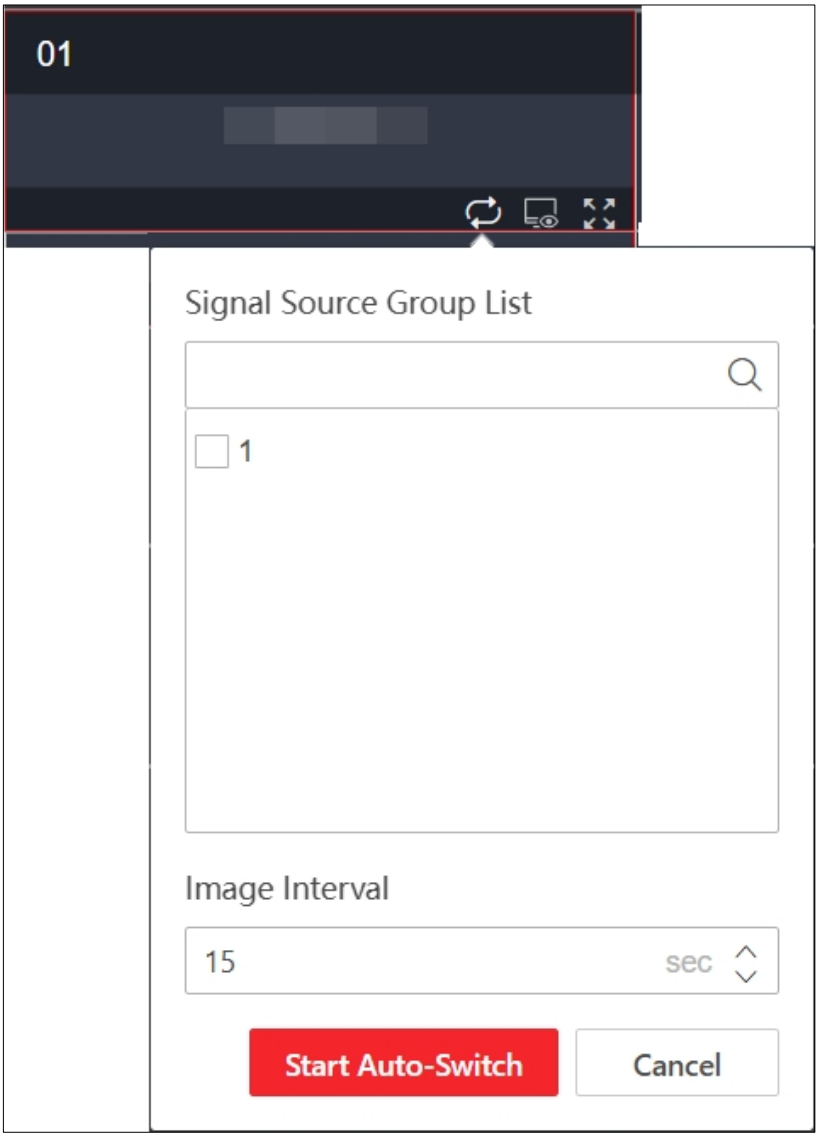


Figure 5-15 信号ソースグループの自動切り替えを設定する

● ウィンドウのステータスを表示する：「**Show All**」をクリックすると、デコードステータスのリストを表示できます。

複数の信号源ウィンドウの編集

[**画面操作**] ページで、必要に応じて以下の操作を行います：

- 信号ソースのプレビュー：

  — 信号ソースウィンドウの右上隅にある「 」をクリックして、信号ソースをプレビューします。「 」をクリックすると、ライブビューをキャンセルします。

  — 「**Video Wall**」ページの上部にある「**Enable Live View**」をクリックすると、ビデオウォール上のすべての信号ソースをプレビューできます。「**Close Live View**」をクリックすると、ビデオウォール上のすべての信号ソースのプレビューを停止します。

  — 「**Video Wall**」ページの上部にある「**Refresh Live View**」をクリックすると、すべての信号ソースのライブビューが更新されます。

  — 「**ビデオウォール**」ページの上部にある [**Refresh**] をクリックすると、すべての信号ソースウィンドウが更新され、すべての信号ソースのライブビューがオフになります。

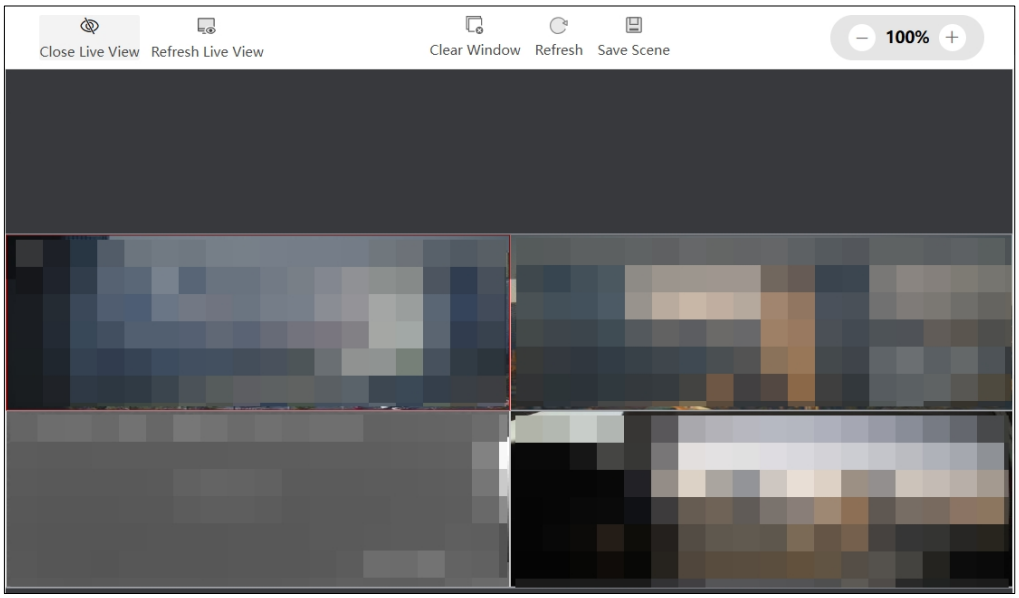


Figure 5-16 信号ソースのプレビュー

- 「**ウィンドウをクリア**」をクリックすると、境界が設定されたすべての信号ソースウィンドウがクリアされます。

5.4.2 Manage Scenes

最大 4 つのシーンがサポートされています。「**画面操作**」に移動して、シーンを管理してください。

- 「**シーンを保存**」をクリックして、設定を新しいシーンとして保存するか、既存のシーンを上書きします。

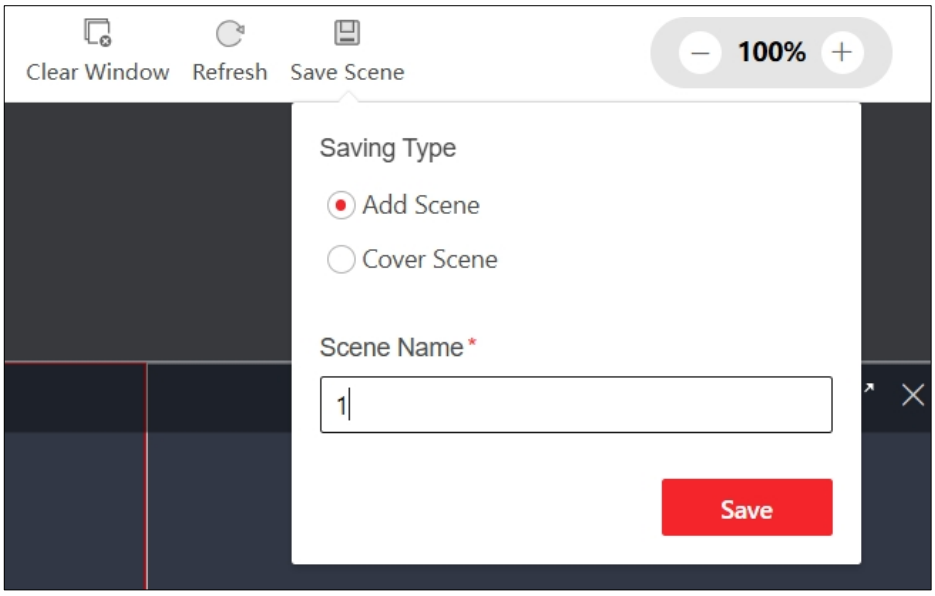


Figure 5-17 シーンを保存

- **[Scene]** をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。[ ] をクリックしてシーンを呼び出します。
- 「**Scene**」をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。「 」をクリックしてシーンを呼び出します。
- **[Scene]** をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。[ ] をクリックして、シーンを呼び出します。[Scene] をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。[ ] をクリックして、シーン名を編集します。

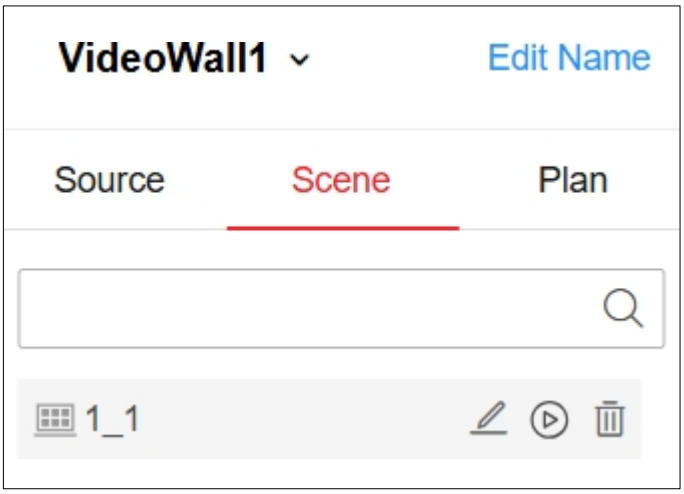


Figure 5-18 シーンの管理

5.4.3 Manage Plans

プランを設定することで、スケジュールに従って 1 つまたは複数のシーンを自動的に呼び出すことができます。Step 1

[Screen Operation] に Go して、ビデオウォールページを開きます。**[Plan]** をクリックします。

Step 2 クリックして をクリックしてプランを追加します。

- プラン名を入力します。
- **[タスクの追加]** をクリックしてシーンを選択し、間隔を設定します。

- （オプション）[**プランを自動的に実行**] を有効にして、必要に応じてスケジュールを設定します。
- [**保存**] をクリックします。

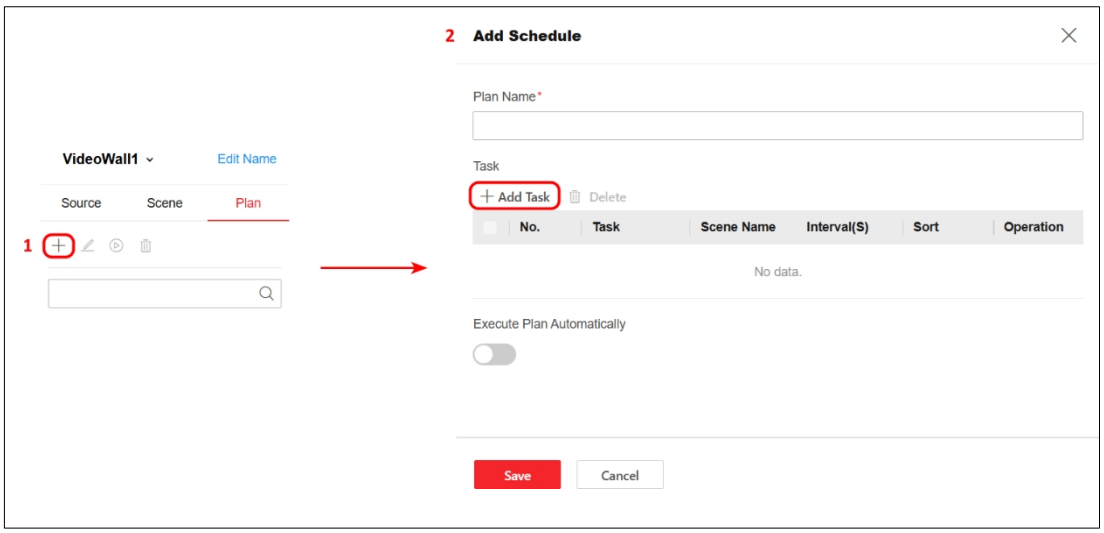


Figure 5-19 プランの追加

Step 3 オプション:

- 編集するプランを選択します。「 」をクリックして、プランのパラメータを編集します。
- 呼び出すプランを選択します。「 」をクリックしてプランを呼び出します。

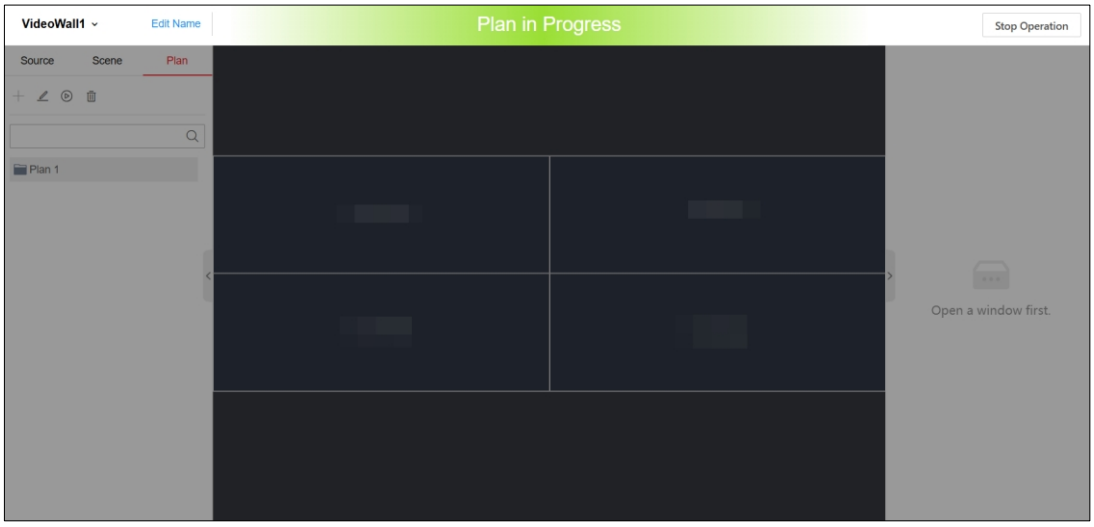


Figure 5-20 プランの実行

- 削除するプランを選択します。「 」をクリックしてプランを削除します。

5.4.4 Maintain the Screen

Step 1 「**Screen Maintenance**」に移動し、入力信号源のタイプを選択します。Step 2 必要に応じて、

以下の操作を実行します。

- 画像モードを選択します。

- バックライトを調整します。
- 「**Screen On**」または「**Screen Off**」をクリックして、画面のオン/オフを切り替えます。
- **[Show]** をクリックして、画面にソフトウェアのバージョンと稼働時間を表示します。

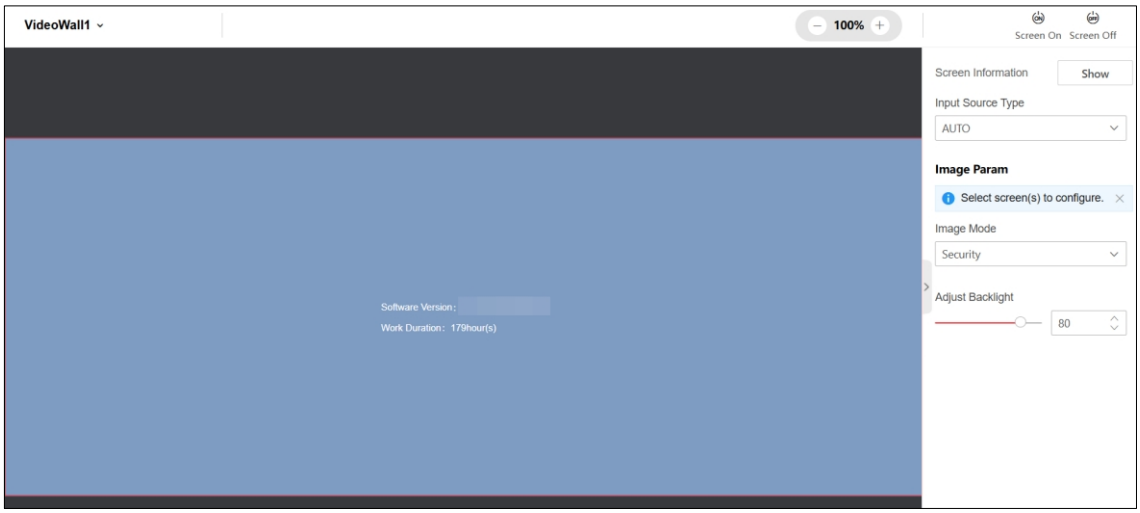


Figure 5-21 画面のメンテナンス

5.5 画面上の画像効果の設定

5.5.1 Configure Timed Screen On/Off Schedule

Step 1 **[設定]** → **[画面のオン/オフのタイマー設定]** に移動し、画面のオンおよびオフのスケジュールを設定します。

Step 2 このページで、画面のオン時間とオフ時間を設定します。「**OK**」→「**保存**」をクリックします。

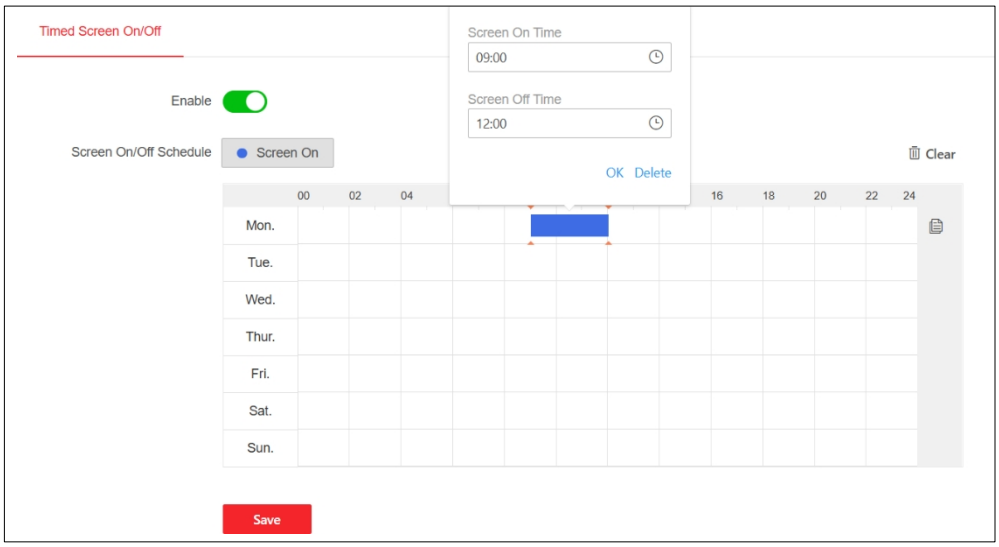


Figure 5-22 画面のオン／オフのスケジュール設定

Step 3オプション:

- 「 」をクリックし、スケジュールを設定したい日付にチェックを入れます。**「OK」**→**「Save」**をクリックして、選択した日付にスケジュールをコピーします。

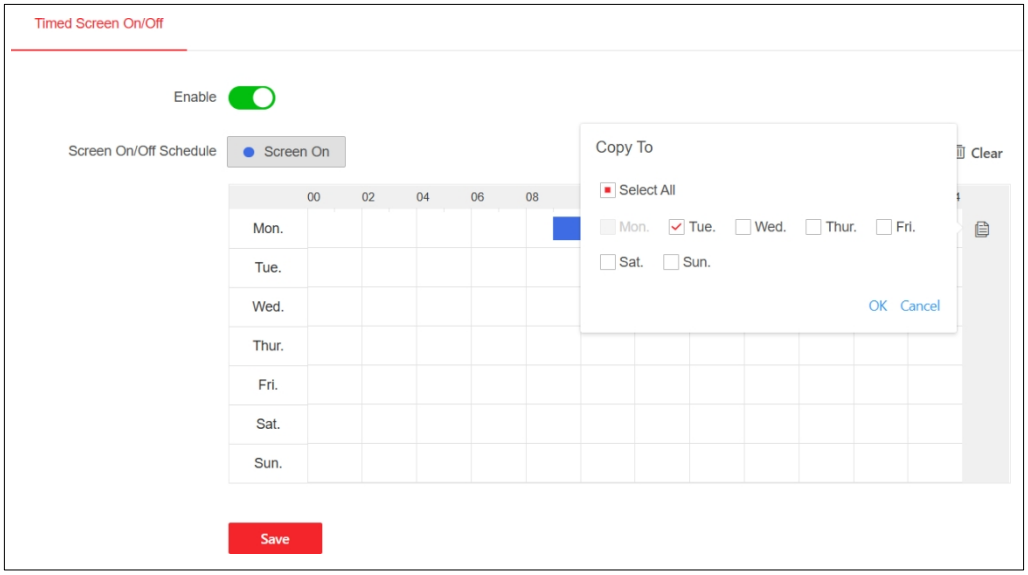


Figure 5-23 画面のオン/オフスケジュールをコピーする

- **[Clear]** をクリックすると、すべての画面オン／オフのスケジュールが削除されます。

5.5.2 Configure Other Parameters

[設定] → **[その他の設定]** にGoし、以下のパラメータを設定します：

- **「サブストリームの自動切り替え」**を有効にし、ウィンドウ分割のしきい値を設定します。

  ウィンドウ分割がウィンドウ分割のしきい値に達すると、デバイスは自動的にサブストリームを使用して画像を取得します。帯域幅の狭いネットワークでは、サブストリームを使用することで、帯域幅の消費を抑えつつ比較的滑らかな画像を取得できます。

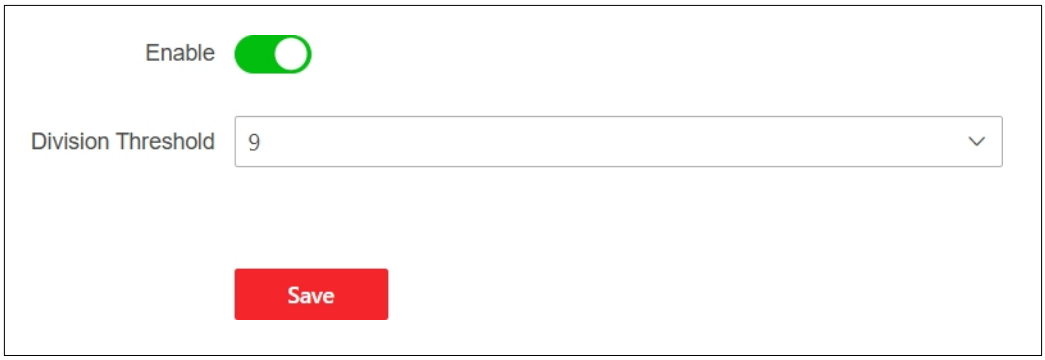


Figure 5-24 サブストリームの自動切り替えを設定する

- **[表示設定]** をクリックし、デコード終了時、ストリーミング失敗時、およびデコードリソースが不足した際に表示される内容を設定します。

— **「ネットワーク信号なしの通知」**を選択すると、ネットワーク信号がないことを示すメッセージが画面に表示されます。

— 「**デバイスの例外**」を有効にすると、デバイスの例外が発生した際に、画面に OSD が表示されます。

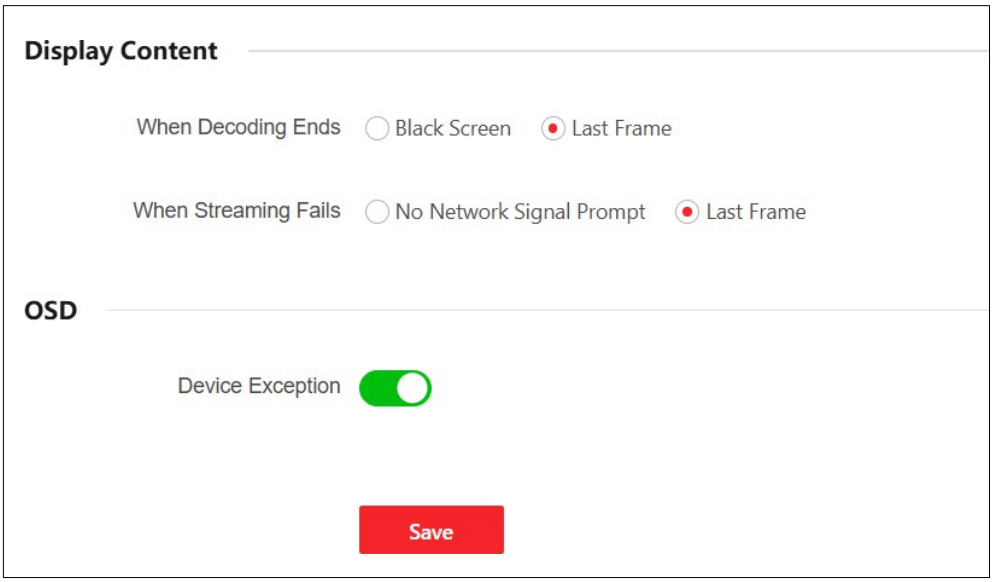


Figure 5-25 表示コンテンツの設定

● **[シーン変更]** をクリックして、シーン変更のタイムアウト間隔を設定します。

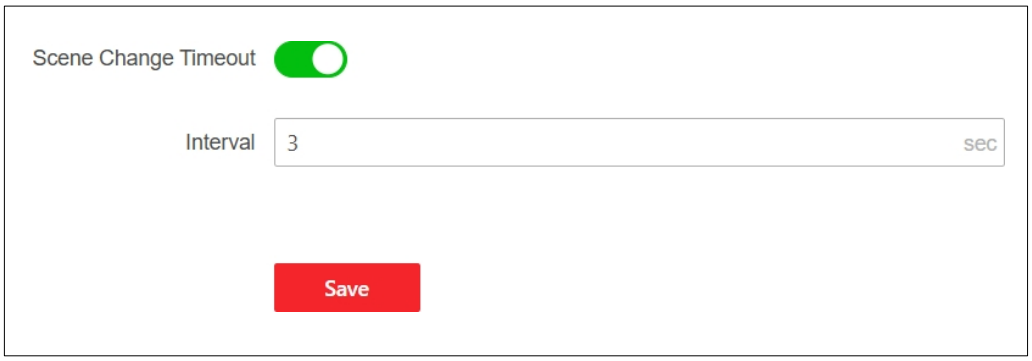


Figure 5-26 シーン変更のタイムアウト間隔を設定

● **[デコード遅延]** をクリックし、デバイスのデフォルトのデコード遅延レベルを選択します。

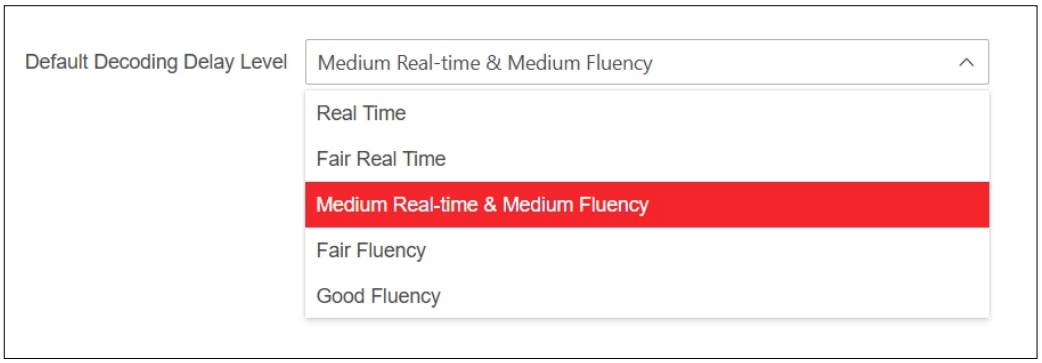


Figure 5-27 デコード遅延レベルの設定

5.6 デバイスのメンテナンス

5.6.1 View Device Status

[概要] をクリックして、デコードリソースの状態、ネットワークの状態、デバイスの状態、およびサブシステムの状態を表示します。

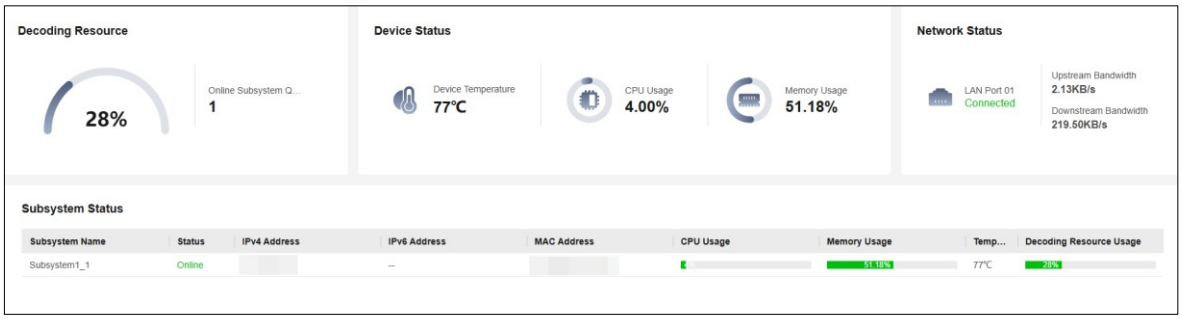


Figure 5-28 デバイスのステータスを表示する

5.6.2 Configure System Parameters

[設定] → [**システム]** に移動し、以下のパラメータを設定します。

- **「システム設定」**→**「基本情報」**に移動して、デバイス情報を表示し、必要に応じて
  必要に応じてデバイス名を編集できます。**「アップグレード」**をクリックすると、デバイスのアップグレードページに移動します。

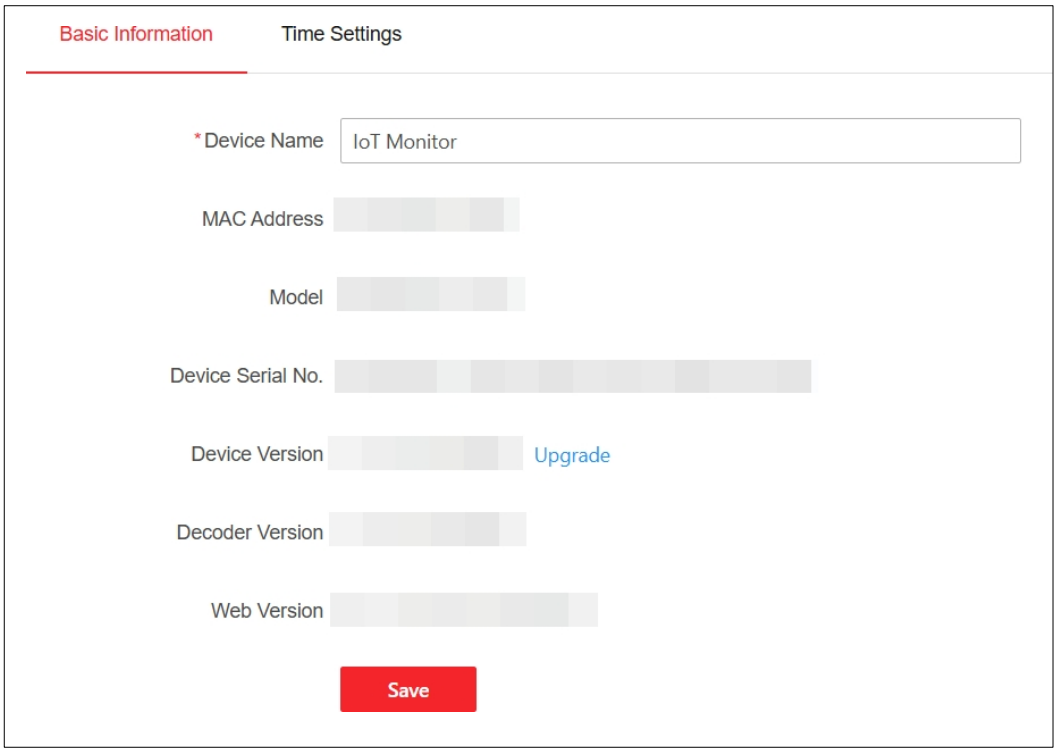


Figure 5-29 基本情報の表示

- **「システム設定」**→**「時刻設定」**に移動し、**「NTP 同期」**を選択すると、指定した間隔でデバイスの時計が NTP サーバーの時計と同期します。

  — NTP サーバーのアドレスとポート番号を設定します。

  — NTP サーバーのアドレスとポート番号を設定します。

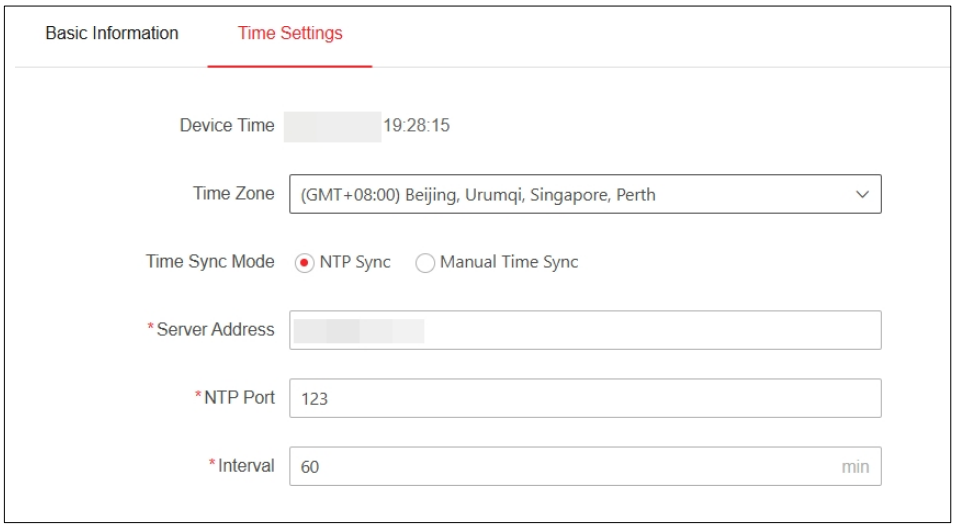


Figure 5-30「NTP 同期」を選択

- [**時刻設定**] ページで [**手動時刻同期**] を選択した場合、**[コンピュータと同期]** をクリックすると、デバイスの時刻をコンピュータの時刻と同じにすることができます。

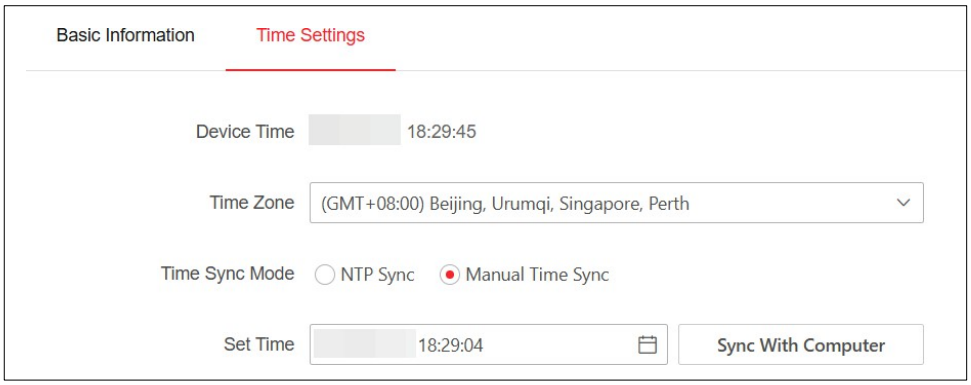


Figure 5-31「手動時刻同期」を選択

● 「**時刻設定**」ページで、DST（夏時間）を有効にすると、夏の間、デバイスの時刻が指定された時間だけ進められます。

— 開始時刻と終了時刻を設定します。

— バイアス時間を設定します。

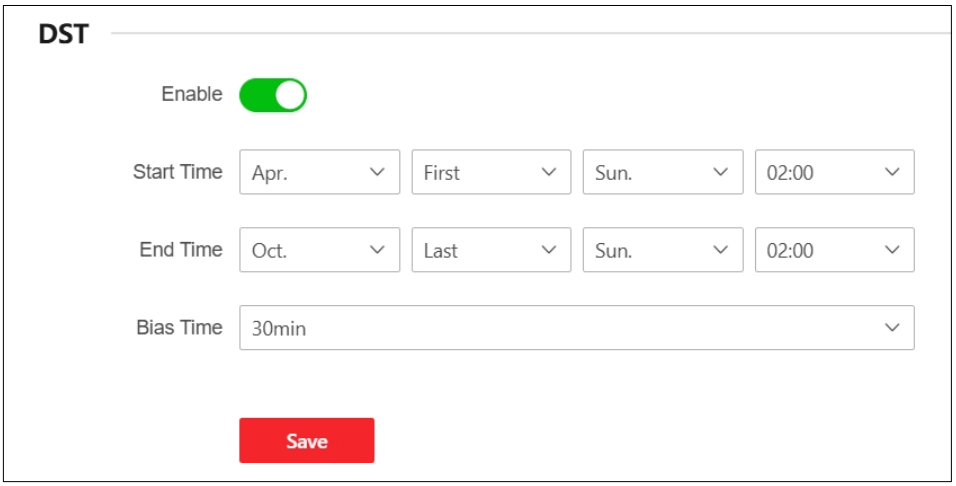


Figure 5-32 DSTを有効にする

● **[ユーザー管理]** → [ユーザー管理] に移動して、ユーザーの追加、ユーザー名やパスワードの編集、ユーザーの削除を行います。ユーザータイプが「管理者」の場合、編集や削除はできません。

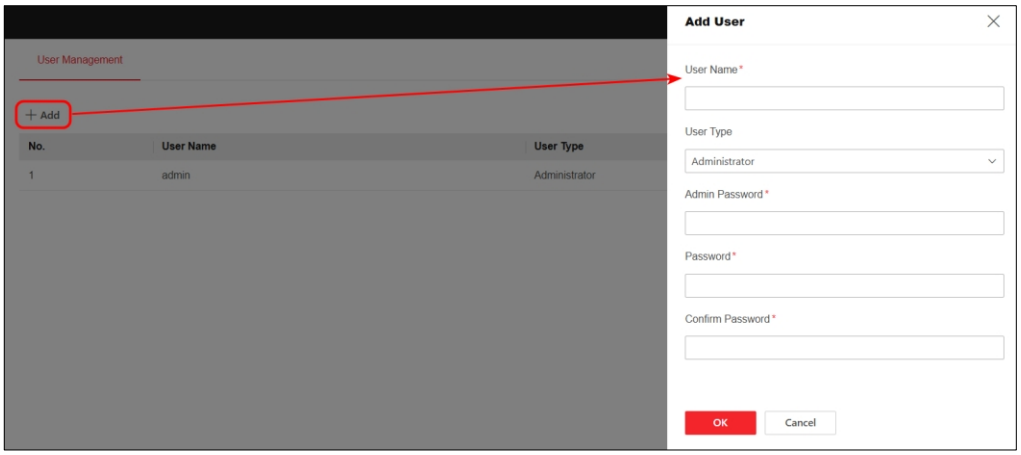


Figure 5-33 ユーザーの管理

- シリアルポートの設定：**「シリアルポート設定」**→**「メインノードのシリアルポート」**に移動し、シリアルポートのパラメータを設定します。

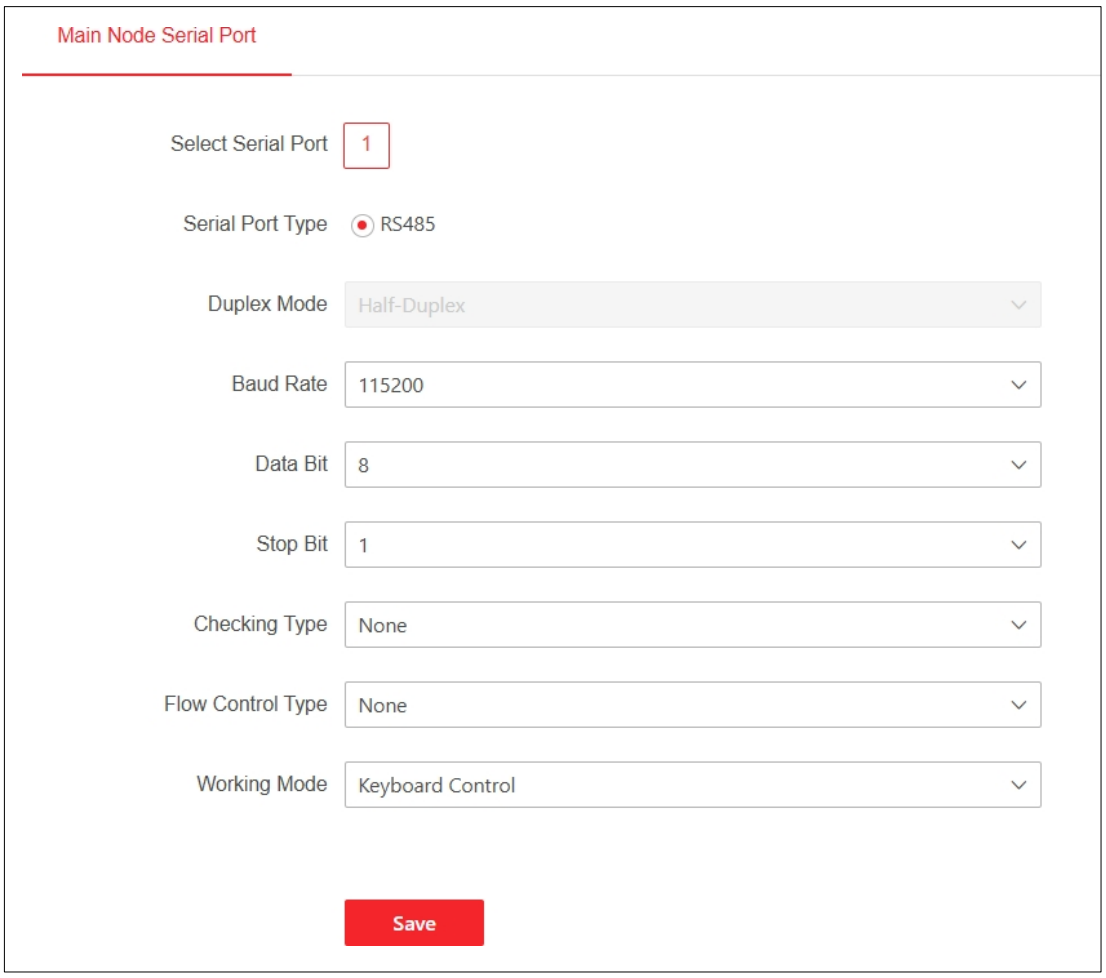


Figure 5-34 シリアルポートのパラメータの設定

5.6.3 Configure HTTP(S) Parameters

Step 1 **[設定]** → **[ネットワーク]** → **[ネットワークサービス]** → **[HTTP(S)]** に移動します。

Step 2 HTTP ポート番号を設定します。

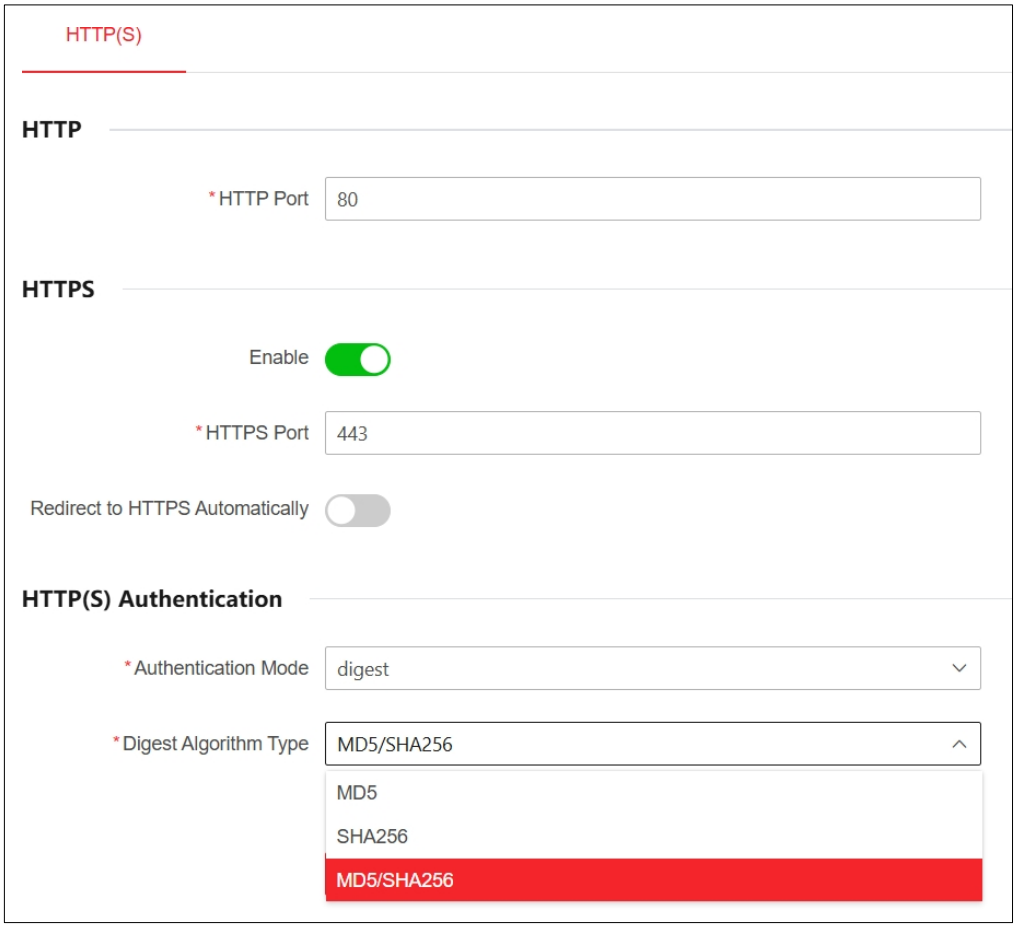
ポート番号は 80 または 2000 から 65535 までの任意の値に設定できます。HTTP ポートを編集した後、ブラウザに「HTTP://デバイスの IP アドレス: ポート」と入力して、デバイスにアクセスする必要があります。

Step 3 HTTPS を有効にしてから、HTTPS ポートを設定してください。

デフォルトのポート番号は 443 です。HTTPS ポートを編集した後、デバイスにアクセスするには、ブラウザに「HTTPS://デバイスの IP アドレス: ポート」と入力する必要があります。

Step 4 （オプション）「**HTTPS への自動リダイレクト**」を有効にします。これにより、デフォルトで HTTPS 経由でのデバイスへのアクセスが使用されます。

Step 5 必要に応じてダイジェストアルゴリズムの種類を選択します。



Step 6 [**保存**] をクリックします。

Figure 5-35 HTTP(S) パラメータの設定

5.6.4 Configure Event

[設定] → **[イベント]** に移動し、デバイスの最高および最低温度のしきい値を設定し、異常イベントが発生した際の音声警告およびプラットフォームへのアラーム報告を設定します。

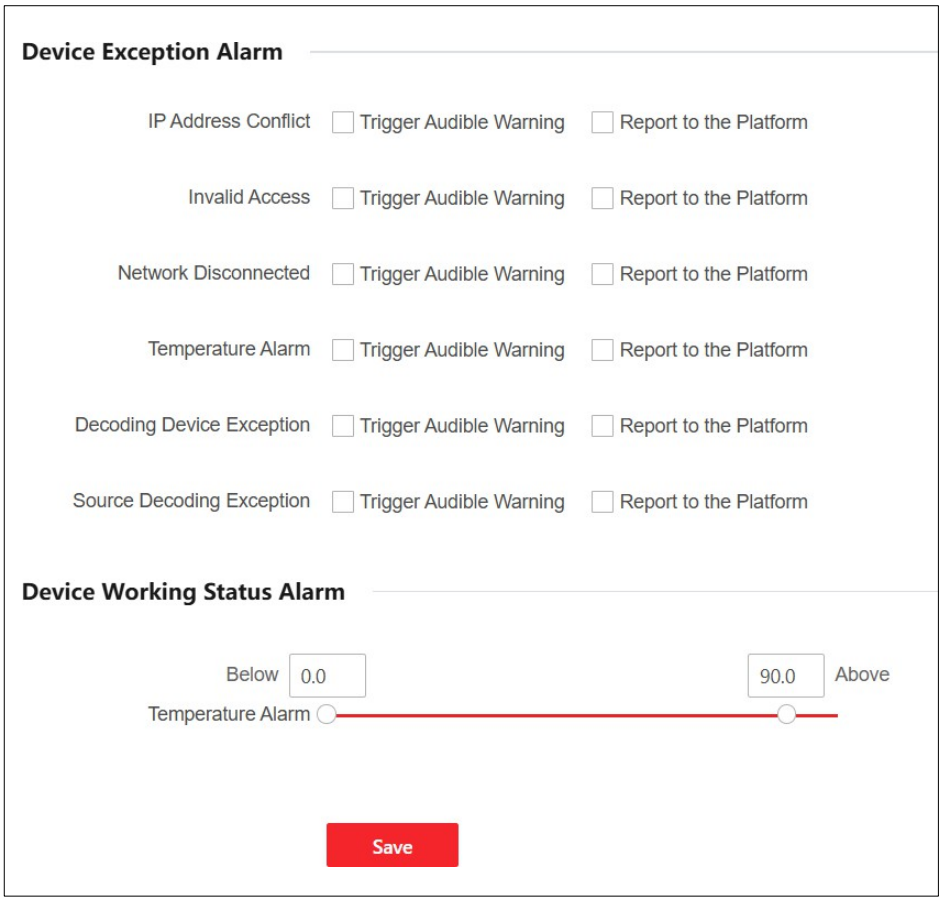


Figure 5-36 デバイスの異常アラームを設定する

5.6.5 Maintain the System

[メンテナンスとセキュリティ] → [**システムメンテナンス**] に移動し、以下のパラメータを設定します。

- **[再起動]** ページで、[**再起動**] をクリックしてデバイスを再起動します。

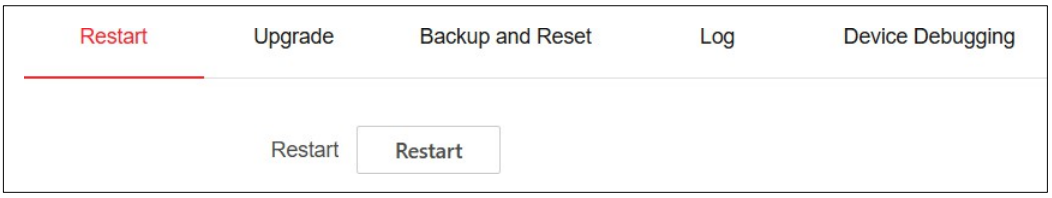


Figure 5-37 デバイスの再起動

- 「**Upgrade**」ページで、「 」をクリックしてアップグレードファイルを選択し、「**Upgrade**」をクリックします。アップグレードファイルは事前に取得し、ローカルに保存しておく必要があります。

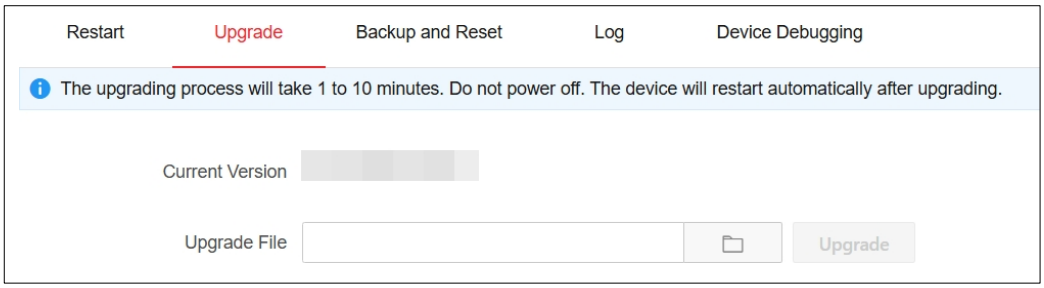


Figure 5-38 システムのアップグレード

● [**バックアップとリセット**] ページで、デバイスのパラメータとシーンのパラメータをバックアップします。

— [**Export**] をクリックし、暗号化パスワードを入力して、デバイスパラメータをバックアップします。

— [**エクスポート**] をクリックして、シーンパラメータをバックアップします。

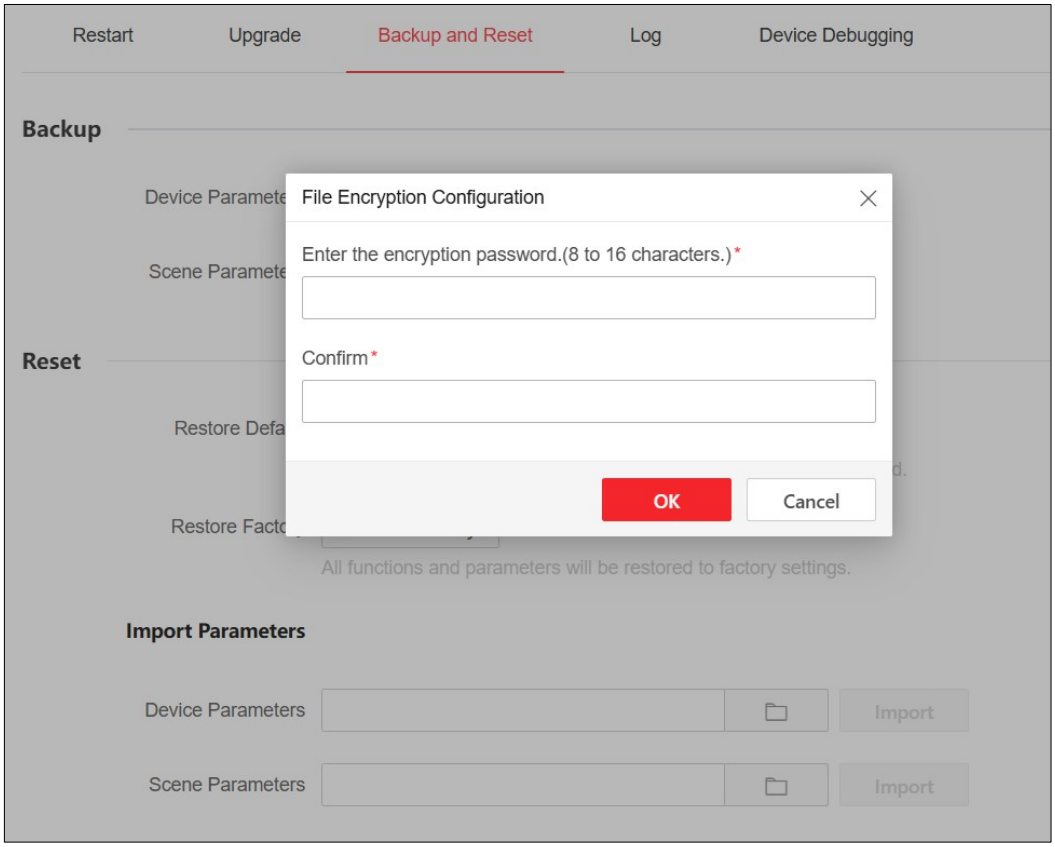


Figure 5-39 バックアップデバイスのパラメータ

● [**バックアップとリセット**] ページで、デバイスをリセットします。

— 「**デフォルトに復元**」をクリックすると、ユーザー情報およびネットワークパラメータを除くすべてのパラメータがデフォルト設定に復元されます。この機能は慎重にご利用ください。

— 「**Restore Factory**」をクリックすると、デバイスのすべての機能とパラメータが工場出荷時の設定に復元されます。この機能の使用には十分ご注意ください。

— 「 」をクリックしてローカルに保存されたパラメータファイルを選択し、「**Import**」をクリックしてデバイスのパラメータをインポートします。デバイスのパラメータをインポートする際は、エクスポート時のパラメータの暗号化パスワードを入力してください。

— 「 」をクリックしてローカルに保存されたパラメータファイルを選択し、「**Import**」をクリックしてシーンパラメータをインポートします。

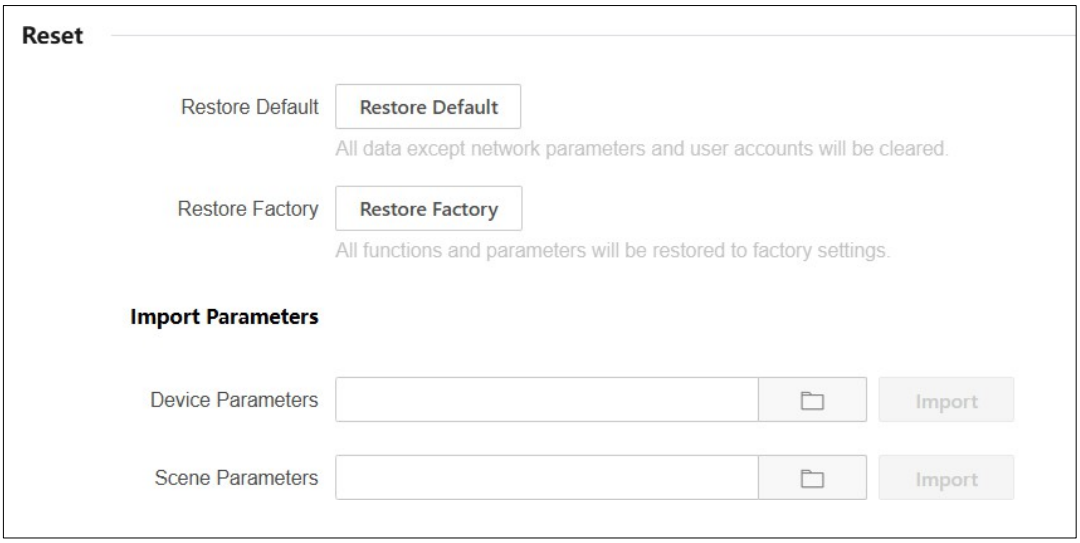


Figure 5-40 デバイスのリセット

● [**Log**] ページで検索条件を設定し、**[Search]** をクリックします。検索されたログは下のリストで確認できます。**[Export CSV File]** をクリックすると、検索されたログをエクスポートできます。

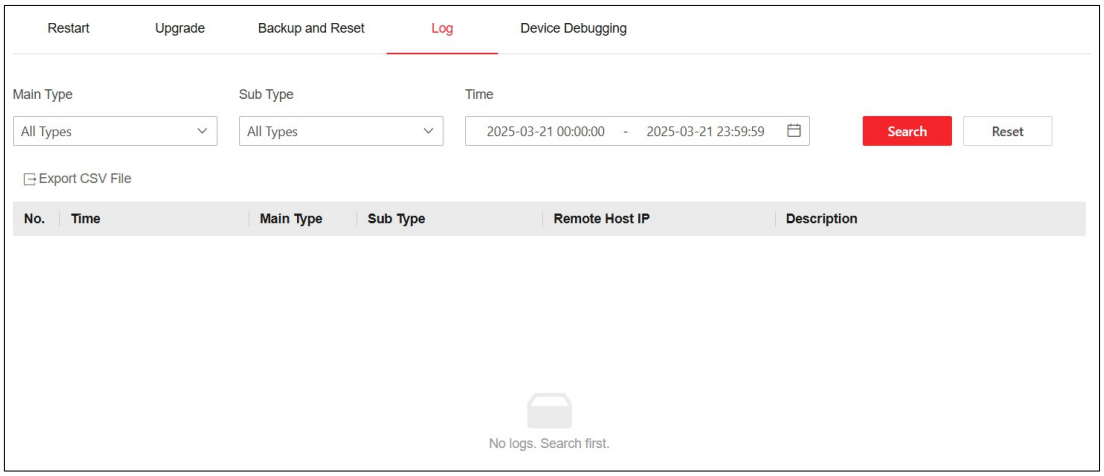


Figure 5-41 ログの検索

● 「**Device Debugging**」ページで、以下のパラメータを設定します。

— 必要に応じて SSH (Secure Shell) を有効にします。SSH を有効にした後は、ポート番号を設定する必要があります。SSH を有効にすると、SSH クライアントがインストールされたコンピュータからデバイスにアクセスできます。

— **「エクスポート」**をクリックすると、ローカルに保存されたデバッグログファイルがエクスポートされます。

— サブシステムを選択し、「**キャプチャ開始**」をクリックすると、取得したパケットキャプチャファイルをダウンロードできます。

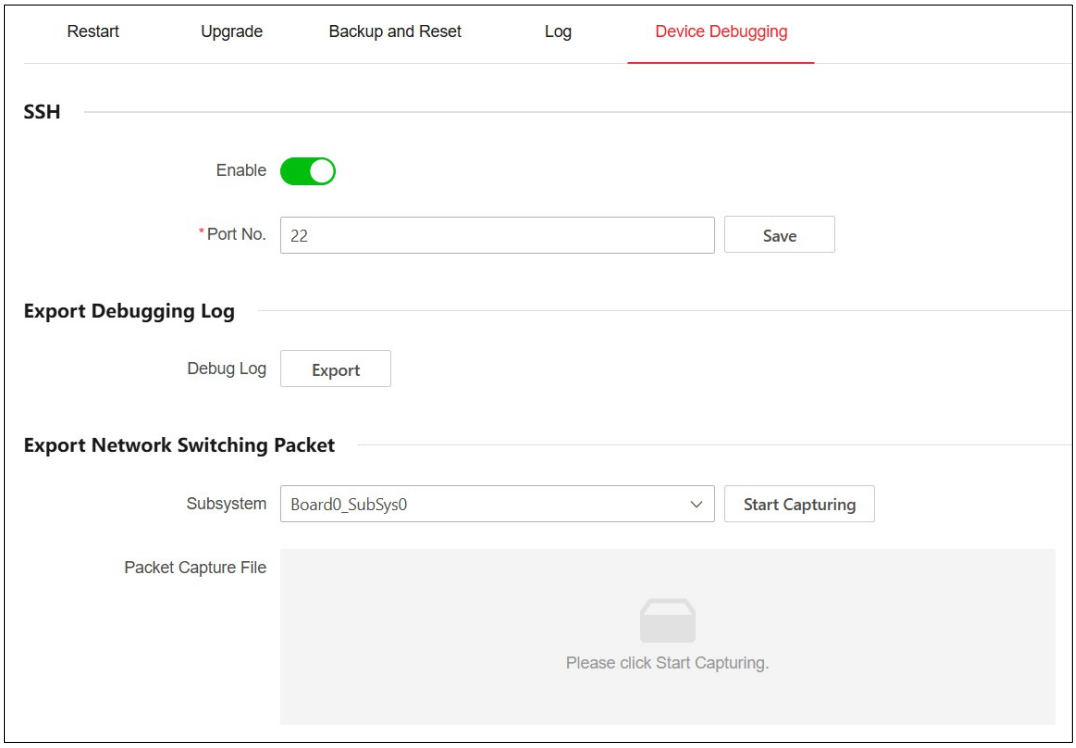


Figure 5-42 デバイスのデバッグ

5.6.6 Maintain Device Security

[**メンテナンスとセキュリティ**] → [**セキュリティ管理**] に移動し、以下のパラメータを設定します:

- IPフィルタリング制御を有効にし、デバイスへのアクセスを許可または禁止するIPアドレスを設定します。

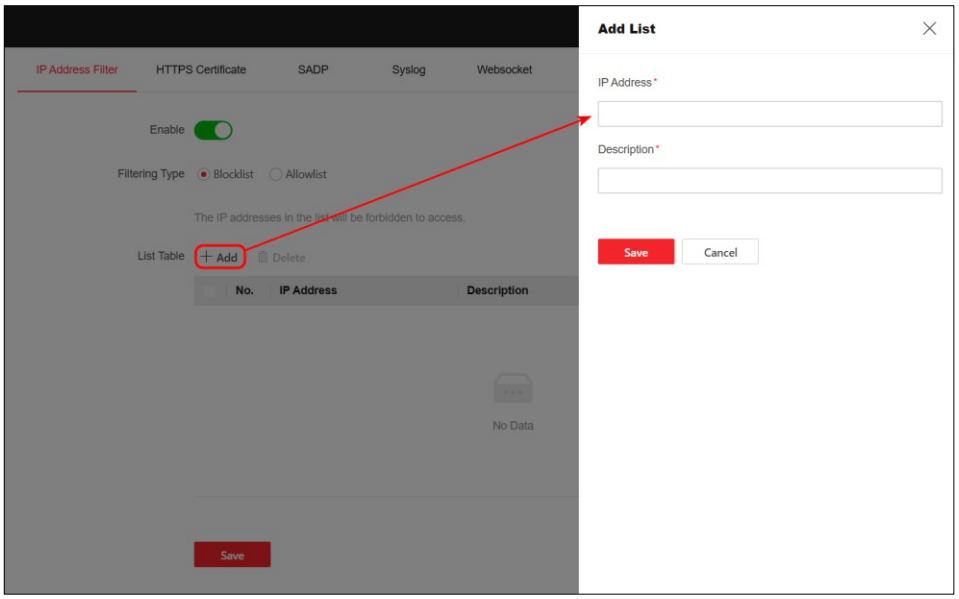


Figure 5-43 IP アドレスフィルタの設定

- ローカルに保存されているHTTPS証明書と秘密鍵をインポートします。

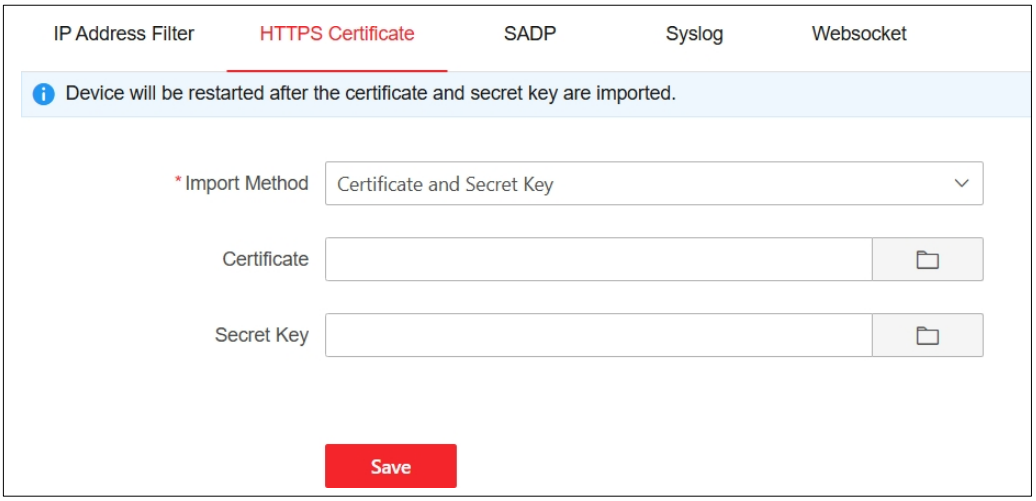


Figure 5-44 HTTPS証明書と秘密鍵のインポート

- 必要に応じてSADPを有効にしてください。SADPを有効にすると、デバイスがコンピュータと同じネットワークセグメント内にある場合に、SADPソフトウェアを使用してデバイスを検索できます。
- 必要に応じて Syslog を有効にします。Syslog を有効にすると、デバイスのログを Syslog サーバーにアップロードできます。

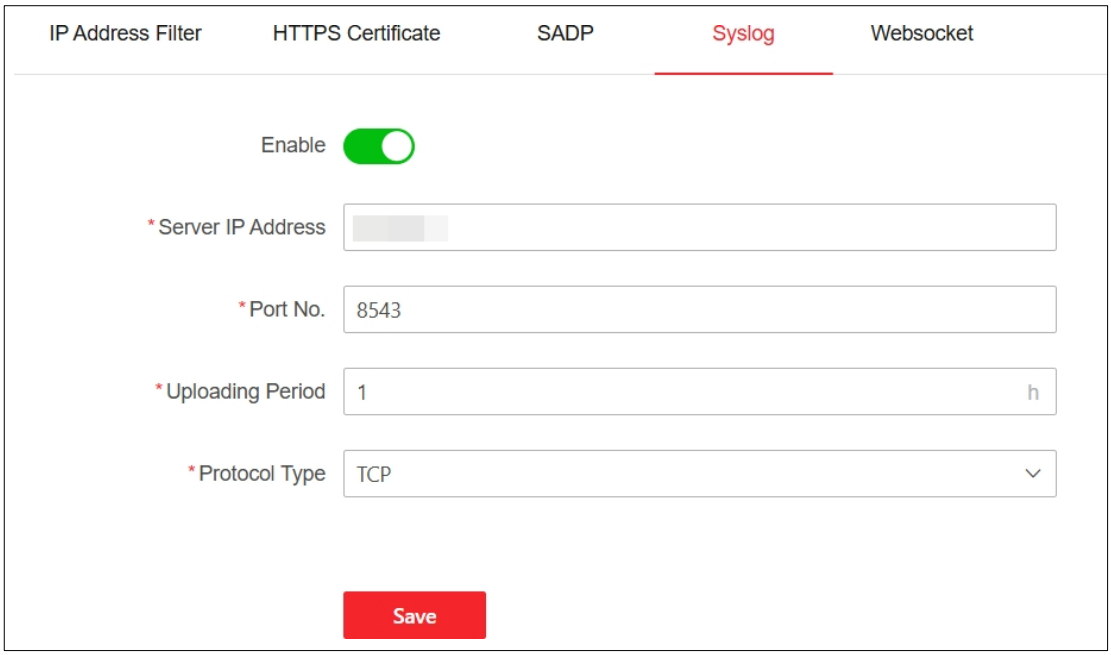


Figure 5-45 Syslog を有効にする

- 必要に応じて Websocket を有効にします。Websocket を有効にすると、ネットワーク信号ソースのストリームをエクスポートできます。

遠くを見据え、さらに先へGo

UD44722B-A